

死なぬ子三人 皆孝行

使つてへらぬ金百圓、死んでも命のある様に

之は幸福の極端な例でありまして、こんな幸福は實際問題として實現し得ませんが、此意味の幸福は努力次第で必ず創造出来る。私は確信致します。汝欲しくば働いて取れ。叫ぶのであります。

次に私が現在の心境に到達し現在の農業經營をする様になつた動機と道程を申述べますが、私も青年時代に一度は都會生活を憧れた事もありましたが、大正十二年の冬現役を満期して二ヶ年目に歸村した時、さしも廣い二千五百町歩の山がほんご赤裸となり、耕地は荒れ果てた姿を見て田圃正に荒れんぞす、の感を深く致しました。此事が私の生涯を通じて忘れる事の出来ない印象であつたのであります。以來私の村には二百四十町歩云ふ相當な耕地があるにもかゝらず、炭焼が主業で農業は片手間云ふ状態で歐洲戦後の好景氣にあふられて、山は全く「山骨表る」云ふ光景で、炭材に枯渴し村の將來は果して何所へ行くべきか、の姿でありました。よし俺は農を以て立さう、俺の村でも農業で生活出来る事

と確信して炭材に枯渴した最悪の場合村民の進むべき道を示そうと決心したのであります。

かうして白い眼と嘲笑と一部理解ある人の激励の言葉の交響樂裡に私の農業經營の第一頁は始まつたのであります。

其頃私は耕地七反半を自作して居りましたのであります。記帳は實行の母なりと考へ一ヶ年の收支を記帳して一家の經濟狀態を知るに共に、如何に多忙な時でも農業に關する講演や講話には出席して縣農會、郡農會、畜産組合や村農會の技術員の直接指導を受けるに共に、又視察にも度々出掛けたのであります。此の間縣の試験場、種畜場、役馬利用指導者養成所は云ふに及ばず、安城の板倉農場、京都の萩野嘉市、滋賀縣の若林千左衛門、岐阜の橋本教示、此等あらゆる篤農家を訪問しましたが、残念ながら地勢、土質の關係上其の地方の經營様式では得る所が無かつたのであります。然し其の何れの人も體驗せられてゐる奮闘努力には精神的に大いに教へられる所がありました。そこで私は「模倣では駄目だ」土地に適應した經營様式の農業を創造せなければならぬと考へまして、農業經營綱領でも申しますか、次の事を決めたのであります。

- 一、農民精神の確立
- 二、農業技術の向上による自己練成
- 三、記帳に基く經營及生活改善
- 四、各種經營要素の聯絡組織化
- 五、家族勞力及畜力の高度運用
- 六、廢物利用と肥料の飼料化による生産費の低減化
- 七、農業の工業化

この七項目を經營の手段とし之を實行することによつて農業經營の目的即ち一家の幸福と、社會への貢獻を念願したのであります。次に此の七項目を綱領とした私の有機的經營法を逐次説明し皆様の御参考に供したいと存じますが、先づ順序として、一之瀬村の概要と私の經營の概要を申し上げます。私の村は度會郡の南部に位し宮川の支流一之瀬川の沿岸にあります。山村でありまして村の中央を宇治山田吉津線なる縣道が貫通して居りますが、宇治山田市へ八里云ふ至つて交通不便な土地であります。

戸數、約三百戸、人口、千八百人、
耕地、二百三十八町、山林、二千三百十九町でありまし

て、地質は秩父古成層で多くの砂礫を含む砂壤土又は砂質壤土で、吸収力極めて弱く灌漑水は一之瀬川の本支流を利用する爲めに旱魃の憂はありませんが、水温が傾いたために冷害は至つて大きいのであります。

以上述べました様に土地、地勢、交通の關係で、都會附近に見る様な大規模な經營や、蔬菜・果樹・養豚・養鶏云つた様な集約的多角形の有利な經營は出来得ない不利な立場に置かれて居るのであります。

次に家族は七人でありまして、従業員四名、非従業員三名であります。私以外は老人や婦女子ばかりで、勞働能力は極めて低いのであります。經營面積は一町二反で自作であります。村の最高二町、村平均七反と比較するならば先づ中流農家でも云へませう。

次に建物では住宅・納屋・農舎・合計三棟で住宅は至つて小さいが農舎だけは思ひ切つて大きく五間半に十一間半の建て、居ります。茲で農舎の設備に就て申述べます。住宅から炊事場浴場を通つて入つた所が、飼料調理場になつて居りまして、其隣が薬部屋と草部屋になつて居りまして、其向側に

厩舎が三部屋取つてあり、其横がカルチベーター、回轉碎土機、其他農具を入れる農具置場と堆肥場になつて居ります。厩舎の次が四間に五間半の柱無し作業場でありまして、其の中央に畜力原動機を置き、之によつて脱穀・調製・精米・精麥・製繩等の動力定置作業や藁打、俵編等色々の作業をするに共に、稲麥の收穫期には、に四、五反を取り入れて置いて雨天でも仕事を進めて行く様にし、養蠶期には此の作業場を利用して蠶の飼育をする様になつて居ります。勞力の調節能率の増進が出来る様に設備してあります。そして此の作業場の横が漬物兼味噌部屋として利用し、外に糞・糞糞・椎茸を乾かす火力乾燥穀物・肥料・飼料を入れる物置にも使用する様になつて居ります。そして母屋と納屋と厩舎は通路によつて聯絡し、厩舎の中央には六尺の通路がありますので厩・堆肥場、作業場、物置へはリヤカーに物を積んで自由に運搬出来る様にしてあります。

尙飼料調理場と堆肥場に就て、もう少しくわしく申上げます。糞部屋の隣にある切糞部屋は一段と高くなつて居りまして高い所から切糞機で一回に百二十把切込める様になつ

て居りまして、之を必要に応じて底の口から出して使へる様になつて居り、そして其の出し口の前に井戸側主管を使用した徑四尺、深さ五尺強の石灰薬やサイロに使用するタンクが二基あります。そして此のタンクには浴場から湯を導く様になつて居ります。こうした設備で風呂の湯を利用して、切糞を石灰水に漬けます。簡単に良質の石灰薬が出来るのであります。次は堆肥場でありますが、私の堆肥場は壁の柱と中央の柱に二寸角の縦棧を打つてありまして、之に厚板を差し込んで積みつ、段々こ上に上げる様にしてあります。此方法によりまして作業が早く出来仕上りが至つて綺麗に出来るのであります。

以上述べました設備を充分利用致しまして、農業を經營して居ります。經營種目は米作九反半、麥四反、綠肥が二反で桑の間作を合して四反、桑二反、蠶七十五瓦、馬一頭、牛二頭、椎茸、蜜柑、其他自家用蔬菜、果樹及畜力利用による脱穀、精米、精麥、製繩でありまして昭和十四年度に於ける總收入二千九百七十四圓支出七百三十四圓であります。

次は技術の問題に入りますが、私が經驗上之れだけは皆様

におす、めして置きたいと思ふ事を二三申添へて置きます。それは苗代の石灰除草であります。米の増收にはさうしましても健苗の育成は肝要で健苗の育成に薄蒔が必要であります。薄蒔にすれば雑草の繁茂は誰しもが困る問題であります。之は、石灰除草によつて完全に防ぐ事が出来るのであります。其方法は下種後十日から十四日以内に晴天の午後三時頃苗代の水を落して、消石灰坪當百匁から百二十匁を降霜程度に振掛け翌朝灌水すればよいのであります。然し之れは下種後廿日過ぎると効果が半減しますから御注意願ひます。

次は糞糞、糞液を飼料にする事に就てであります。分析の結果によります。大豆粕の飼料價値即ち澱粉價は七二、六。大麥は七二、〇、糞糞は七八、三でありまして、かりに藪百貫を取つて糞糞糞液を全部飼料に利用すれば、藪百貫と同時に麥、八、九十貫取つたと同じ事になるのであります。牛は之を非常に好み喰べ過ぎて困る程ですから、始め二三回は少づつ食べさせ、其後は成牛一頭に付生の目方で四、五貫を與へます。体も太り毛色も目に見えて光つて來ます。

次はクレゾールに依る糞の自然上糞であります。クレ

ゾール一匁を一升の水に入れ之を一斗の粉殻にかけて用ひます。熟糞だけきれいに糞に上るのであります。此の方法による大へん勞力を節約する事が出来ます。注意を致しましては、初め一割程度を一頭拾いにして次に八割を此の方法で上げるのであります。後残り一割を又一頭拾いにするのであります。此際永く糞を乗せて置き過ぎぬ様に注意が必要であります。

次は椎茸の種入れ栽培法ですが、時間の關係上くわしく説明も出来ませんが、過去三ヶ年の實驗によります。接種栽培は發生百發百中で、しかも在來の方法より一年早く發生を見るのであります。そして正月頃宅地利用で速成栽培すれば、處理後七日目に高價な椎茸が採取出来るのであります。

次は飼料としての石灰薬であります。切糞を石灰水に浸漬致します。これくらい飼料價値を増すかご申します。

普通の切糞が澱粉價 一七、九

蒸した切糞が 一八、四

簡易石灰薬が 三九、六(約二倍の効東なる)

煮沸石灰薬は 四五、五(約三倍の効東になります)

私は前に農舎の設備の所で申上げた様に、二基のタンクによつて年中石灰糞を牛馬に與へてよい成績を舉げて居ります。次は畜力原動機であります。之は畜力を利用して石油發動機と同じ仕事をさす機械でありまして、即ち石油の統制にも困らず、肥料を造り煙を吐く百姓向の原動機でありまして、之に脱穀機、糶摺機、精米機、製繩機を連結致します。非常に能率の上るものであります。そうして私は主として馬を使つて居りますが、牛でも回轉數さへ調節すれば、馬も少しも變らない云ふ事はすでに私が實驗済で御座います。

以上は私の農業經營を縦に説明するに同時に、技術上の事を二、三述べましたが、今度は私の農業經營を横に説明致しまして御参考に致します。即ち各種經營要素が如何に連絡して居るか如何に利用されて居るかを申します。米・麥・蔬菜・柿・梨・大豆・蒟蒻薯・椎茸は販賣ミ食料の自給を兼ね副産物である。糞は、飼料ミ加工原料ミ糞の場合糞座を清潔にするため切糞・糞等に用ひ養畜・加工・糞に一度使用したるものは厩肥ミなり最後は堆肥ミなつて自給肥料ミなる。麥稈も小麥を除く大麥、稗麥の稈は、石灰水に漬けて飼料ミして利用して

居ります。

次は綠肥作物であります。蠶豆は牛馬が好かない爲に私は紫雲英ミザートウキツケンを作つて居りますが、之等は出來る限り生草で飼料ミし残りはサイロに詰めてエンシレージミして牛に與へ、牛馬の腹を一度くゞらして後肥料ミする様に、養畜ミ肥料の自給化に努め桑の條、改植の古株、椎茸の廢木、糶殻は一度燃料ミして其灰を肥料に使用し、糞糞、糞渣肥料用大豆粕も一度飼料ミして後肥料ミなる様に二重に利用して居ります。

次に家畜では、牛は犢の生産ミ厩肥の生産及農耕に利用し、馬は脱穀、製繩及精米、精麥、稻、麥、桑肥料等の運搬、麥の中耕、桑園の中耕、除草等勞力の補給及能率増進に利用する。云ふ様に、總べての經營要素が縦にも横にも聯絡して居る様に利用しまして、總合的に生産費の低減を計り、農業所得を増す様に努めてゐる次第であります。斯様にして農業支出及家計費一ケ年一千七百三十九圓の内一千七圓を自給し得る事が出來たのであります。又勞力分配ミ云ふ角度から見れば作物別及月別労働豫定表を作つて居りまして、冬は麥作り、

椎茸、製繩、堆肥、依編、春は麥、養蠶、苗代、夏は養蠶、米作、草刈、秋は稻の取入れ養蠶等天氣の良い日には農耕、雨天には製繩、精米、依編等年中平均して働く様に勞力の分配を考慮をして居るのであります。勞力は二人九分で五百五十九日を働いて居り、牛馬も百二十日使用して畜力利用により勞力の不足を補ひ、一面能率を上げ人畜一体家内一致して農業にいそしんで居る次第であります。

次に消費に對しては、二宮尊徳先生の分度法に則りまして現金支出の豫算表を作つて入るをはかつて出づるを制する様努力して居ります。そして經常費の内飲食費、被服費、教育費、衛生費、は主婦の受持ミして其の範圍内の流用を認め農業經營費、臨時費、豫備費、積立金、災害貯金は私が受持つて居ります。尚生活費の内でも修養費、衛生費は豫算を多目に取つて、修養ミ家族の健康には一段の考慮を拂つて居ります。他の科目の豫算超過は絶対認めませんが交際費、寄附金の豫算超過は豫備費から出して、禮儀はむしろ厚く義理を缺かさぬ様注意して居る次第であります。尚本年は主婦ミ長女が一日交代で家計をやるのだミ申して居りますが、此様に

共々分擔する事によつて金錢上に於ては、一錢の祕密もなく家内圓滿に朗らかに生活をして居ります。

以上で私の農業經營の全貌を御話申上げました次第であります。更に之を要約致します。懸命に働く奮闘主義。記帳に基く經營改善。人力畜力の合理的運用。各種經營要素の組織的連絡化による生産費の低減。此四つを特色とする農業經營法でありまして十四年度の實績によりまして、一日の日當が四圓一錢ミなつて居ります。

次に私の農民道ミ労働觀及人生觀を申し上げて終ミ致します。即ち農は國の基であり民族生存の糧を造る業であります。天地の生命を創造し得るミ云ふても過言でないであります。あらゆる職業中最も尊ひ職業であります。そして自然を相手の仕事でありますから、努力次第でいくらでも報酬を受ける事が出來愉快な上に安心して生きる事の出来る職業であります。此の實体こそ農民精神であり、農村に生きる者の人生觀であります。こんな良い職業が樂めなかつたり本氣になれない人がありミすれば、それは努力の不足か、工夫の不足か、何か悪い原因があるに相違ありません。この原因は

何か、私がある時ある所の當時有名な精農家を訪問しました時、其の精農家が保険屋に轉向して居て、がっかりした事があります。又世間には狸や兎か新奇な副業を線香花火式にやつては直ぐ棒を折る人を見受けますが、此等の人は農業の理念に不純な点があり、勤勞觀が確立して居らぬ爲だこ私は信じます。

我々の生命は此一生肉体と共に滅するものではなく、未來永劫に無くなるものでないであります。そしてこの生命を永遠に生かす方法は、生活と職業を通じて天與の使命に貢献す事によりて、其の目的を達し得ると思ひます。先年私が父と我家の本山である京都花園の妙心寺に參詣した時の話であります。法塔の壁畫になつてゐる加能探幽の龍を見て其構想の雄大さ、其の筆致の勇揮なのに私は非常に感激したのである。それは何故か、取りも直さず探幽云ふ藝術家が全身を打込んで書いた龍云ふ作品を通して、探幽の生命のリズムが躍動して居る爲だと思ふのであります。それと同じ様に我々農民が生命を打込んで作つた米の精によつて偉大な藝術家偉大な政治家、偉大な宗教家を生み出し得るこするならば、我

々農民は米云ふ作品を通して永久に生き、人類の幸福に貢献し得るものと思ふのであります。斯の様な風に考へる時我々の打下さ一蹴は其使命と意義に燦然たる光輝を放つ譯であります。

次に我々が生きて居るこ云ふ事實は天皇の御恩、社會衆生の恩、祖先の恩、父母の恩によるものでありまして、使命を果し人生を意義あらしめ生命を永遠に伸ばし一切の恩に報ゆる道は、實に利那を生かす勤勞あるのみであります。そして勤勞の目標は、

利那を生かす創造生活
よりよく生きる向上生活

全身全靈を打込んで働く奮闘生活あるのみ。實に奮闘をはなれて娛樂なく歡喜は奮闘の大小に正比例致します。即ち勤勞は苦痛ではなくして歡喜であります。此處に至れば農業をする事即ち宗教であり、藝術であり、感謝しつつ、働かざるを得ないではありませんか、そして御互は東亞新秩序建設の爲め事變下に於ける農村の物的、人的重大性に鑑み、一致協力戦場の花を散つた護國の英靈や前線將士の苦勞

に對して、恥かしからぬ様努力奮闘しようではありませんか。そうして事變下現在は云ふ迄もなく事變後の反動期に對する心構へとして私の經營法に信念が皆様の農業經營に少しでも御参考になれば私の幸とする所でありませぬ。

(附記 本農家は宇治山田市より約七里山田驛前よりバスの便あり。)

農業經營調査成績

(一) 家族		氏名		年齢	勞働能力	備考
經營主	太田 與三郎	三	元	八		
妻	こらん	三	元	八		
長女	寅吉	三	元	八		
次女	とみ	一	八	七		
男	悠紀子	一	二			
男	勤	一	七			
男	創	一	七			
男	造	一	七			

(二) 經營面積		所有	借入	貸付地	備考
一毛作田	二,〇〇〇反	一	二,〇〇〇反	一	
二毛作田	七,七〇〇反	一	七,七〇〇反	一	
計	九,七〇〇反	一	九,七〇〇反	一	

(三) 農業収入

種類	数量	生産	高	備考
普通畑	四〇〇	一	四〇〇	
桑園	二,〇〇五	一	二,〇〇五	
柑橘園	三三	一	三三	
計	二,七三四	一	二,七三四	
山畑	一三,三三	一	一三,三三	
山林	一六,三三七	一	一六,三三七	

作物	反別数量	生産	高	備考
水稲	九,七〇〇	五四依	六八,〇〇	
小麦	一,〇〇〇	四依三斗	五四,八〇	
大麦	二,〇〇〇	一依	一〇,〇〇	
綠肥	一,〇〇〇	五依三斗	四四,〇〇	
甜菜	二,〇〇〇	二,〇〇〇貫	三三,〇〇	
其他	三三	四五貫	三,六〇	
計	一,〇〇〇	一	一三,〇〇	
春蠶	三〇五	一元貫六〇〇	三〇,八〇	
初秋蠶	一〇	七,〇〇〇	六八,〇〇	
晚秋蠶	三五	三,一〇〇	三六,八五	
計	三七	一	一〇,三三	

種目	現金	現物	計
牛	三頭		三頭
馬	一頭		一頭
養肥	四、五〇貫		四、五〇貫
糞肥	一九、九〇		一九、九〇
米	三、七六		三、七六
麥	一八、〇〇		一八、〇〇
牛賃借料	四四〇、六八		四四〇、六八
畜計			四四〇、六八
農産	八〇〇貫		八〇〇貫
加炭	三、七〇		三、七〇
工灰	二六、五〇		二六、五〇
山木	三〇、四一		三〇、四一
林薪	一八、一五		一八、一五
其他計	三九、五六		三九、五六
合計	二、九七三、七一		二、九七三、七一

(三) 農業支出

種目	現金	現物	計
建物費	四、〇〇		四、〇〇
農具費	三三、五五		三三、五五
種苗費	六、元		六、元
蠶種費	三六、〇〇		三六、〇〇
飼料費	四、〇〇		四、〇〇
肥料費	五三、三〇		五三、三〇
光熱動力費	二二、一五		二二、一五
薬剤費	四、一〇		四、一〇

項目	金額
加工原料費	四、〇〇
雇傭勞賃	三三、三〇
諸負債	一八、〇〇
負債利子	七四、七〇
其他	一〇、七三
計	一三九、七〇
農業所得	三、三九、五六
農業収入	三、三九、五六
農業支出	三、三九、五六
差引 (農業所得)	三、三九、五六
耕地一反當	一八三、九九
家族一日當	四〇、二

一九六



度會郡東外城田村大字蚊野 石井 齊吉

只今御紹介に預りました石井であります。今回縣農會主催選抜農家經營發表大會を當女學校講堂に於て開催せらるゝに當りまして、極めて經驗の淺い又研究の乏しい私がかうも多數御集りの皆様方の前に立つて、自分の經營を發表致します事は私として生涯忘れる事の出來得ない光榮と存する次第であります。支那事變は第四年目を迎へまして、時恰かも光輝ある紀元二千六百年に相當ります。興亞日本の國難を乗り切るには銃後國民は上下心を一にして産業の開発を圖り國家總力戰に備へる事は喫緊の要務と存するのであります。此の重大時局に當り私の農業經營を御話し申上げる事は甚だ恐縮に存する次第では有りますが、私は農業者の最大の責務である食糧生産の立前から米麥作を主体とする經營を以下御話し申上しまして皆様の御批判を仰ぎたいと思ひます。地勢の概況を申上げます。私の村は度會郡の西北にあつて南

は内城田村、北は田丸町、東は下外城田村、西は多氣郡西外城田村に接し南に國東山、北に外城田川が流れて居りまして、私の部落は東外城田村の北部で人家は臺地に散在してゐます。耕地は北東に展開し平坦地であります。土質は第三期層又は沖積層に屬して下層は丸礫又は強粘土であつて表土は赤褐色を帯びる粘土又は粘質壤土で、土質粘強でありますから耕耘整地には甚だ困難な土質であります。灌溉水の源は外城田川の上流であつて水量は可成豊富であります。最も近い市場は宇治山田市であつて東方約三里であります。農産物の販賣は村産業組合があり各區に購買部、出荷組合がありますから大抵の農産物は之による様になつてゐます。當村の耕地面積は田が四百七十町九反、畑一百六十一町であります。以上が當地方の概況であります。

次に私の農業經營に付いて申上ります。田は一毛作田四反一畝、二毛作田一町四反九畝、計一町九反であります。外に畑五反を經營してゐます。家族は九人でありまして従業者は四人で他は老人及子供であります。作物の栽培狀況は水稻が一町九反、麥が八反、蔬菜一反五畝、果樹五畝、桑園二反五畝

孟宗竹五畝であります外に養蠶は三回で五十五瓦、役牛一頭を飼育してゐます私が農業に従事する様になつてから丁度三十年になります。其の間の事を良く考へて見ますのに、我が國の人口は非常な勢で増加して行きます。人口の増加に伴つて當然食糧となる米の消費が増加して行く事は申す迄もありません。然るに米の生産額は明治の時代も大正の時代も現在も目立つた増産はされてゐない様に思ふのであります。人口の増加が止まない限り何時かは米が消費を満たし得られない時期が来ると思ひます。之に對處するには、

一、稲作面積を擴大して生産を増加するか。

二、稲作を改善して増収を図るか。

以上の何れかを選ばなければならぬと思ひます。然し吾が國の國情から考へますと、一は望め得ない事でありまして、二の場合を選ばなければならぬと思ひます。

私の地方としては地勢の状況からして米麥作を主体とする經營を餘儀なくされてゐるのでありますから従つて稲作には最大の關心を持つてゐるのであります。又收穫の多少は自家の經濟に及ぼす影響が非常に大きいのでありますから全力を注

いで研究を致して居ります。それで第一に農事試験場の田口技師に土壤調査や肥料試験を御世話になつて、増収に施肥の合理化を圖つて居ります。又増収品評會や經營共進會には出品して研究の資料にしてゐます。過去の稻の増収品評會の成績は反當八俵から八俵半でありましたので、上位の入賞は出来なかつたのであります。上位の入賞が出来ない云う事は自分の經營に何か缺陷があるに相違ないと思ひまして、上位入賞者の体験を色々聞きまして研究してみますと、やはり施肥に於て自給肥料が充分でないことを知りましたので自給肥料の施用に一段の努力を拂ふことに致しました。御蔭で成績も段々良くなつて昨年の試験田の收穫高は反當四石の實收を得まして、嘗ての増収品評會に於ける優秀者より劣らない成績を得ましたのであります。此の結果から考へて私は自給肥料を用ひなくては稲作の増収は望めない云ふ確信を持ちました。反當十俵取の稲作經營の概略を申しますと、苗代に堆肥三百貫石灰窒素五貫を施し耕耘は牛耕によりまして、最初一回働いて稻株を密取り其後三回働返し極く細かく土を碎いて四月下旬に水を入れ之を短冊に作り五月上旬、坪二合播き

こします。苗が一寸位に伸びた頃間引を行います。間引後に木灰を坪當り二十匁を施し除草の目的で坪當り五百匁程度に土を撒布します。肥料が不足の場合には燐炭肥料を五十貫位を施します。除草は苗の二寸位の時から二、三回は行ひます。外の管理に付いては一般に變りはありません。本田には堆肥六百貫を施し後牛耕を致します。耕耘の翌日客土一千貫位を入れ金肥としては配合肥料十貫を施して後代掻を行ひまして田植を致します。苗は二本植こします。其後の管理は熊手で一回除草器で三回、手取一回を行ひます。八月下旬に燐炭一百貫を施すのであつて、九月下旬に水を落しますが此頃になれば雜草もほんご見當らず、人が田の中に入つても分らない程繁ります。以上が反當四石を取つた稲作の概要であります。

次に麥作に付いて申しますと、私の地方は雨が降る三四五日は麥蒔にかゝれないのであつて、裏作には非常に都合の悪い土質でありますから天候を見計らひまして、一回鋤き、之は鋤きとして其の上を碎土器で半を使用して、三、四回鋤き充分細かく碎き、畦の真中に一尺一尺五寸位の巾に條を一條切つて反當六升位の種子を蒔いて堆肥二百貫位を以て覆をし

て其上に土をかけるのであります。一月三ツ葉になつた頃にサライで麥の上を掻きならします。二月中旬に配合肥料反當十貫を施して後土入を行ひます。外に一般管理として麥踏を三回行ひます。麥踏は半日で一町歩位は出来ませす。斯様にして肥料不足の現れる處へは燐炭肥料を反當五十貫宛施用する事にしてゐます。以上の栽培法によりまして昨年は實收六俵を得ました。

以上御話申上りました米麥栽培は私の試験田による成績であります。其結果は増収をなすにはさうしても自給肥料を多く施して地力の増進を圖らなければならぬ事と、努力を惜しまず充分に手入をする事が何より大切であります。私は以上の栽培法を全經營田に及ぼす様に努力する考であります。

今申しました様に米麥作の増収に最も關係の深いのは肥料であります。肥料は米麥作のみでなく如何なる經營様式の農業でも生産の多少に大きな影響がある事は今更云うまでも有りませぬ。肥料使用法の巧拙は農業經營の收支に尨大の關係があると思ひます。昨年の夏宮川で度會郡の草刈競技會がありました。之は草を早く刈こ云ふ事よりも自給肥料の増産

上草刈りの奨励を農會が指導せられてゐるのでありまして、吾々自身も自給肥料に就いては格別の研究をなさねばならぬと思ひます。殊に肥料不足の現今では尙一層痛感する次第であります。私は從來から山草を刈つて堆肥や燐炭を製造してゐます。堆肥に就いては省略しまして燐炭肥料の製法に就いて御話し致します。最初に巾六尺、深さ四尺五寸の穴を掘つて材料は落葉、雜草(刈草)、藁等を使用しまして初めに一把の藁に火をつけて穴に投込み、次に右の材料を段々に穴に投込むのであつて此の際は火を上に出さない様に注意する事が肝腎でありまして、白黄色の煙が出てゐるのが良い様に思はれます。斯様にして一時間半位續けますと材料で穴一杯になりますから其上に濡藁で覆ひをします。二三時間過ぎますと一尺位嵩がへりますから其の頃に人糞尿で火を消しながら之を取り出すのであります。此の時に使用します人糞尿は三、四荷位で結構と思ひます。以上の製法で約六、七十貫の燐炭を作る事が出来ます。此の燐炭の肥料成分はさうなつてゐるかは存じませんが、私の体験からみますと相當効果がある様に考へられますので、年々相當製造して肥料として作物に施して

をります。

次に私は農業労働に付いて考へてゐる事を申上ります。吾々農業者は働くに云う事によつて本分を盡す處が多いのでありますから勤勞を第一とせなければなりません。働くに共に技術の研究も又必要であります。

近年原動機が非常な勢で普及して來ました。例へば米麥の調製に土臼やヤマメ器が姿を消して原動機使用による調製機や脱穀機になりました。以前の土臼による米の調製は三人か、つて一日に十二三俵を普通として居りましたが、現在では一日もかゝらずして調製から後仕末も出來上ります。麥の調製も樂でありますから此等の調製だけでも相當に勞力の餘剰を生じてゐる筈であります。此の様に色々の機械の利用が多くなればなる程勞力が餘つてくるのでありますから機械力の利用の尠ない時代も現代の様によく使用する時代も同じ様な經營面積では勞力に餘剰が生れると思はれます。

私は以上の理由で經營面積を擴大する事に常に努力して居りますのであつて一番手近い方法として裏作を勞力の許す限り多く作付致して居ります。勞力の配分を計画的にやる爲め

差引農業所得

二四八圓〇五錢

家計費

現金七四圓五錢現物表三圓三錢 計三七七圓五錢

となります。

只今は食糧問題で七分搗や節米運動が八釜敷叫ばれてゐる秋で有ります。此重大時局に直面してゐる吾々農業者の責務は非常に重く思ひます。食糧問題の解決は吾々農業者の手によつて成さなければ外に之を解決する人はないのでありますから御互に充分時局を認識して經營の改善を圖りまして吾々の使命達成に邁進仕様では有りませんか。永らくの間御靜聽を煩しまして感謝致します。

(附記 參宮線田丸驛より約一里バスの便あり)

農業經營調査成績

(一) 家族

從業者	經營主	氏名	年齢	勞働能力	備考
妻	石井	齊吉	四〇	一〇	
長女	〃	さの	三六	八	
長男	〃	一枝	三三	七	
	〃	信郎	二六	五	

に農家簿記を年々記帳してゐます。稻作には何作業に何人、麥作には何人云ふ様に最初に計畫を樹てまして實行に移すのであります。斯様にしますと勞力に無駄が出來ないで農業經營が圓滑に行きます。以上は勞力のみについて農家簿記の必要を申上げたのですが、簿記は農業經營にはなくてはならないものと思ひます。記帳によりまして自分の經營を充分認識する事が出來ますから例へば農業經營の各項目毎にうまく經營がされてゐるか、或はゐないかを検討致しまして、初めて經營の改善が出來る次第であります。私は三十年來記帳を勵行して私の家庭に適した様に經營を改善してきました。以上が私の行つてゐる農業經營の概略であります。之を收支別に申上げます。

農業收入

現金 二六三圓〇錢

現物 一〇四圓元錢

計

三六六圓元錢

農業支出

現金 八九圓〇〇錢

現物 四九圓一四錢

計

一三八圓一四錢

非 母 次 男	從 三 次 男	業 者 三 次 女	者 三 次 女	(一) 經營面積		子守其ノ他農業従業 日數 日 小學校在學 小學校在學
				所有	借入	
				反計	貸付地	考
				二、六〇〇	一、四〇〇	六
				一、八〇〇	一、四〇〇	二
				二、八〇〇	一、四〇〇	二
				一、六〇〇	一、四〇〇	二
				二、二〇〇	一、四〇〇	二
				二、二〇〇	一、四〇〇	二
				一、六〇〇	一、四〇〇	二
				一、六〇〇	一、四〇〇	二
				一、六〇〇	一、四〇〇	二

(二) 經營面積		(三) 農業收入		所有 借入		貸付地		備考	
田	田	田	田	田	田	田	田	田	田
一毛作田	二毛作田	計	計	計	計	計	計	計	計
四、一〇〇	三、一〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇
二、一〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇
一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇
一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇
一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇
一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇
一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇
一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇
一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇

畜		養		役		養		養		種	
雞	兔	兔	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛
一頭	一頭	一頭	一頭	一頭	一頭	一頭	一頭	一頭	一頭	一頭	一頭
三、〇〇〇貫	三、〇〇〇貫	三、〇〇〇貫	三、〇〇〇貫	三、〇〇〇貫	三、〇〇〇貫	三、〇〇〇貫	三、〇〇〇貫	三、〇〇〇貫	三、〇〇〇貫	三、〇〇〇貫	三、〇〇〇貫
一頭	一頭	一頭	一頭	一頭	一頭	一頭	一頭	一頭	一頭	一頭	一頭
一、〇〇〇貫	一、〇〇〇貫	一、〇〇〇貫	一、〇〇〇貫	一、〇〇〇貫	一、〇〇〇貫	一、〇〇〇貫	一、〇〇〇貫	一、〇〇〇貫	一、〇〇〇貫	一、〇〇〇貫	一、〇〇〇貫
一頭	一頭	一頭	一頭	一頭	一頭	一頭	一頭	一頭	一頭	一頭	一頭
一、〇〇〇貫	一、〇〇〇貫	一、〇〇〇貫	一、〇〇〇貫	一、〇〇〇貫	一、〇〇〇貫	一、〇〇〇貫	一、〇〇〇貫	一、〇〇〇貫	一、〇〇〇貫	一、〇〇〇貫	一、〇〇〇貫
一頭	一頭	一頭	一頭	一頭	一頭	一頭	一頭	一頭	一頭	一頭	一頭
一、〇〇〇貫	一、〇〇〇貫	一、〇〇〇貫	一、〇〇〇貫	一、〇〇〇貫	一、〇〇〇貫	一、〇〇〇貫	一、〇〇〇貫	一、〇〇〇貫	一、〇〇〇貫	一、〇〇〇貫	一、〇〇〇貫
一頭	一頭	一頭	一頭	一頭	一頭	一頭	一頭	一頭	一頭	一頭	一頭
一、〇〇〇貫	一、〇〇〇貫	一、〇〇〇貫	一、〇〇〇貫	一、〇〇〇貫	一、〇〇〇貫	一、〇〇〇貫	一、〇〇〇貫	一、〇〇〇貫	一、〇〇〇貫	一、〇〇〇貫	一、〇〇〇貫

(四) 農業支出

種目	現金	現物	計	備考
建物費	七〇、〇〇	〇	七〇、〇〇	
農具費	五〇、〇〇	〇	五〇、〇〇	
種苗費	二四、〇〇	〇	二四、〇〇	桑苗
蠶種費	三〇、〇〇	〇	三〇、〇〇	
家畜費	三三、〇〇	〇	三三、〇〇	
飼料費	六、〇〇	〇	六、〇〇	現金(桑代三、〇〇牛飼料四、〇〇)
肥料費	二七、〇〇	〇	二七、〇〇	
光熱動力費	五、〇〇	〇	五、〇〇	
藥劑費	二、〇〇	〇	二、〇〇	
加工原料費	〇	〇	〇	
雇傭勞賃	一五、〇〇	〇	一五、〇〇	
小作料	〇	〇	〇	
賃借料	〇	〇	〇	
負債利子	〇	〇	〇	
租税公課	〇	〇	〇	
計	八二、〇〇	〇	八二、〇〇	



宇治山田市今在家町
西井安次郎

今回三重縣農會主催のものに開催せられました。選抜農家經營發表大會に其の一人として發表させていただきました。私の最も光榮とするところであり、暫くの間御靜聽を煩わしたいと存じます。

私の部落は宇治山田市ではありませんが、五十鈴川上流の間部でありますので、従つて耕地も狭く階段の田畑が多いので經營も非常に困難な所であります。

私の農家組合は神路農家組合に申しまして、組合員數十四名、耕作面積田十四町歩、畑一町七反歩であつて、農家一戸當田一町歩、畑一反歩餘りであります。

私の地方の農業は十年以前には非常な原始的な經營法を致して居りまして、稻作反當收穫高は三俵乃至四俵であり、組合總生産高が五百俵乃至五百五十俵程度で林業が本業で農業は副業の様でありました。

近年非常に農業技術が進歩しまして、農産物の生産が増加して来たことは、非常に結構なことでありますが、其の結果をしまして、金肥の使用が増加して農家経済が非常に困難になつて参りました。其の時幸にも縣農務課倉田先生の園地指導の御蔭によりまして、組合員が非常に農耕に熱心になつて好成績を収めることが出来たのであります。昭和十三年及び十四年度の稲作の成績を見ましても、八百數十俵の大増収をして居るのであります。十年前に比べますと三百俵の増収となつたのであります。

この倉田先生の御指導の方針は、自給肥料を第一義として其の不足分を金肥を以つて補ふと云ふ合理的栽培法なのであります。

次に私の経営の概要を申し上げます。

農業経営の組み立は稲作に炭焼であります。私の家は昔相當の財産がありましたのですが、父が事業に失敗致しまして田畑全部を賣却しました上に一千圓の借金を残して、此の世を去つたのでした。其の時私は二十一歳の青年でありますし、母は非常に弱く、弟妹は小學生時代でありました。其の

後は組合員の方々の御親切によりまして、毎日元氣に労働に従事して居ります内に、追々好景氣時代になつて参りまして、二十六歳の時には借金を全部返すことが出来ました。二十八歳の時には六百圓の預金が出来ましたので、農工銀行で六百圓借り入れまして田を六反歩買入れました。三十歳の時に山林一反歩を開墾して畑とし、三十二歳の時に田二反二畝歩を買入れ、三十五歳の時に山林一反歩を開墾して畑とし、三十六歳の時に田二反八畝歩を買入れ、其後追々開墾しまして畑となし只今では自作田一町一反歩、小作田二反五畝歩、畑自作二反五畝歩を經營して居るのであります。

次に私の研究して居ります事項に就いて御話申し上げます。先づ第一に稲作であります。之につきましては普通田、指導田、堆肥田の三區に分けまして、研究をして居るのであります。

耕地は殆んど階段になつて居りまして、土質も悪く表土は三寸五分より四寸位で、其の下は赤土及岩石であります。又山間でありますから日照時間が少ない爲に生育も悪く、其の上野猪の被害も相當多いのであります。

改善の要点は、地力の維持増進を爲に、堆肥、綠肥、堆土等の自給肥料を澤山施すことに努めて居ります。

土壤に就きましても常に土質の状態を研究して施肥を行つて、其の改善に努めて居るのであります。

田は自宅から近い所に六反歩が集團して居りますので此れを堆肥田とし、一里程遠方に七反五畝歩あります。此れを二分して指導田五反歩と普通田二反五畝歩に區分して研究を致して居ります。田の裏作は濕田、苗代を除いた九反歩に早生種の紫雲英を播いて居ります。紫雲英は寒さの加減で成長悪く又早く蒔き込みますので收穫は反當二百貫餘りであります。

(一)堆肥田に施す堆肥は厩肥二十貫、土二十貫、草及糞十貫の割合で堆積して置きまして、三月下旬に一度切換して四月下旬に反當一千貫程度を施し蒔込むのであります。紫雲英は四月下旬に三寸餘りに成長して居りますから刈り取らずに其の儘蒔き込みます。其の量は反當百貫位であります。

(二)指導田は四月下旬紫雲英を刈り取り堆肥三百貫と混じて蒔込みます。紫雲英の目方は約二百貫であります。堆肥田、指導田共に基肥として金肥は尠しも施して居りません。

(三)普通田は金肥は出来得る限り節約しまして、堆肥二百貫を施し蒔込みまして、後代播の時に石灰反當五俵施すのみであります。

苗代は市農會の指導通りに實行して強い苗を作る様に努力して居ります。

私の家の勞力は妻と二人ですから植付けの都合上極早生種及び中生種の一部を四月十五日に下種しまして後四月二十三日頃中生種及晩生種を下種致しました。五月二十二日から早生種を植へはじめます。一週間程して上天氣を選んで腰休めに果樹園の藥劑撒布をします。田植は六月五、六日頃終了します。次に灌水であります。私の地方は非常に日照時間が尠く、日陰になる田が澤山ありますので、午後一時頃から三時頃迄に灌水します。一方日當りの割合によい田は夕方灌水します。

次に追肥は「普通田」に過石四貫、鱈粉三貫、硫酸一貫五百匁、加里一貫五百匁の配合肥料を六月末から七月中旬迄に反當三畝を施用いたします。

堆肥田は普通田と同一配合割合のものを一反歩に付二畝を

七月上旬に追肥として施して居ります。

指導田は過石三貫、鱈粉末三貫、硫酸一貫、加里三貫の配合肥料を一畝七月中旬に施用致します。

次に成績は「普通田」は株数が多いが草丈短く、穂も小さく、又収量は多いが品質は悪いのであります。「堆肥田」は株数は少いが草丈長く穂も大きく、品質も又良いのであります。

「指導田」は株数相当多く、穂も割合に大きく、品質も良く、収穫量に於きましては、各試験共二ヶ年續けて同じであります。晩生種は七俵半、中生種は六俵半、早生種は五俵半、極早生種は五俵の収穫がありました。

之に要しました肥料代は、普通田で配合追肥代と石灰代を合して十七圓五十錢。堆肥區の金肥代の八圓、指導田の金肥代は七圓でございます。

次に畑作は二反五畝歩全部に桑を植えて居りましたが、養蠶不況の爲に一反歩だけ柿に植換へました。柿の間作に蒟蒻薯を栽培して土地の集約化に努めて居ります。蒟蒻薯の肥料は全部自給肥料で栽培して居ります。其の他に荒廢地が八畝歩ありまして、田にも畑にもなりません。五十鈴川の増水

の時には、土をか木の葉をかを運搬して来て作土は澤山ありますので杉苗及竹を植えて、其の中で椎茸の栽培をして居ります。現在では主として自家の食用及贈答用の程度であります。将来は相當増産する計畫であります。

本年度は副業として養蠶よりも椎茸の栽培に力を入れて居ります。原木は最近三ヶ年を平均する三十貫匁五十錢程度で収量は最盛期には十貫匁の原木から一ヶ年二百匁以上の収穫があります。此の椎茸栽培はあまり労力も要しませんし、又肥料も要しません上に手軽に出荷が出来まして、山間部の副業としては最も良いと思ふのであります。

次に自給肥料の増産を圖る爲に、成牛の外に仔牛を飼養して居ります。畜牛の賣買は常に志摩郡の家畜市場を利用して居ります。飼料は菜養本意で大麦、甘藷、大豆粕等でありまして、飼料の買入高は一頭一ヶ年五十圓以内にして居ります。仔牛の運動としては十數間の距離に杭を二本立て、それに鐵線を張つて仔牛をこれにつないで運動させて居ります。こうして仔牛を飼育しました成績を申し上げます、十二年五月に一頭五十圓で購入して、十三年五月に百七十圓に賣却し

ました。十三年三月に一頭五十八圓で買入れまして、十四年五月に百七十圓で賣却しました。又十四年三月に一頭九十圓で購入して飼育中ですが、只今百五十圓で買ひに來て居ります。

其の他私の地方は非常の山間部でありますから野猪の被害が相當ありますので、長さ二尺五寸の竹を割り繩で編んで野猪の通路に之を張りました所が大變効果がありました。最後に昨年度の實績を申し上げます。

水稻	一町三反五畝	八〇俵	三六〇圓
小麥	一反	七俵三斗	九三圓
桑園	一反五畝	一〇〇貫	三〇圓
果樹(柿)	三反五畝	六四圓	

養蠶は勞力の都合によりまして、晩秋一回を飼育して収穫量は六貫九匁で九十圓四十八錢、養畜は牛一頭の交換金として五十八圓、炭俵二百俵で二十圓、炭七俵で二百五十圓(純収入)、薪で三十圓の収入がありまして、其の他の現物を現金に換算して見ますと、農業總収入は二千七十九圓になります。農業經營に要する経費は五百六圓でありまして、差引

農業収入は一千五百七十三圓になります。之を働く者一人當りに換算しますと七百八十七圓になります。又此の經營に要しました労働日数は六百三十四日でありまして、一日當に換算致しますと二圓四十八錢の日當りなるのであります。長らく御静聽有難うございました。以上

(附記 本農家へは宇治山田市より約三里にして度會郡五ヶ所町行バスの便あり)

農業經營調査成績

(一) 家族				
從者	經營主			
業妻	西井安次郎			
非業母	まさの 三			
	きん 三			
(二) 經營面積				
所有	借入	計	貸付地	備考
一毛作田	一	一	一	
二毛作田	二,〇〇〇	二,五〇〇	一三,五〇〇	
計	二,〇〇〇	二,五〇〇	一三,五〇〇	
普通畑	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	
如桑園	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	
計	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	

田畑計	一三,〇〇〇	二,五〇〇	一六,〇〇〇	
山林	五〇〇		五〇〇	

(三) 農業收入

種別	数量	生産高	備考
水稲	一三,五〇〇反	一,三六〇,〇〇〇	
小麦	一,〇〇〇石	九三,〇〇〇	
果樹	七俵三斗	六四,〇〇〇	
桑	一,五〇〇張	三〇,〇〇〇	自家用ニ供シタルモノヲ含まズ
紫雲英	九,〇〇〇貫	二八,〇〇〇	
晚秋蠶	一〇瓦	一,五七五,〇〇〇	
蠶	六貫九〇〇	九〇,〇〇〇	
養蠶	六貫	二,五〇〇	
役牛	一頭	—	
育成牛	一頭	五八,〇〇〇	育成二頭ノ利益
畜厩肥	二,〇〇〇貫	五三,〇〇〇	
農産加工	二〇〇枚	一〇,〇〇〇	
製炭純益	七〇〇俵	二〇,〇〇〇	
薪	三〇〇把	三〇,〇〇〇	
合計		二,〇〇九,〇〇〇	

(四) 農業支出

種目	現金	現物	計	備考
建物費	—	—	—	
農具費	一五,〇〇〇	—	一五,〇〇〇	
蠶種費	四,〇〇〇	—	四,〇〇〇	
飼料費	五〇,〇〇〇	—	五〇,〇〇〇	
肥料費	二八,〇〇〇	—	二八,〇〇〇	
藥劑費	五,〇〇〇	—	五,〇〇〇	
雇傭勞賃	一八,〇〇〇	—	一八,〇〇〇	雇傭日數(五日)(女)
小作料	—	八五,〇〇〇	八五,〇〇〇	玄米五俵
賃借料	一〇,〇〇〇	—	一〇,〇〇〇	
租税公課	六八,〇〇〇	—	六八,〇〇〇	
其他	二〇,〇〇〇	—	二〇,〇〇〇	
合計	三三〇,〇〇〇	一八五,〇〇〇	五〇五,〇〇〇	
農業收入	—	二,〇〇九,〇〇〇	二,〇〇九,〇〇〇	
農業支出	—	五〇五,〇〇〇	五〇五,〇〇〇	
差引 (農業所得)	—	一,五〇四,〇〇〇	一,五〇四,〇〇〇	
農業所得	—	一,五〇四,〇〇〇	一,五〇四,〇〇〇	
家族一日當	—	六八,三三三	六八,三三三	(農業所得ヲ經營面積一町ニ反ニテ除シタルモノ)
家族一日當	—	二,四八八	二,四八八	(農業所得ヲ家族ノ從業日數六日ニテ除シタルモノ)



度會郡豊濱村大字磯村
奥山清之助

滿洲事變が漸く濟んだと思ふとき平和な大陸の一角北京郊外蘆溝橋附近に起つた支那兵の不法射撃に端を發して日支事變が始り、聖戰は早第四年になりました。其の間幾多の同胞は尊い生命を御國のために捧けて戦ひましたのであります。今や大陸支那には興亞新政府が生れ東亞の黎明、曉の鐘が高らかに鳴り渡つて、吾等國民は等しく最上の悦びとして居るのであります。事變は未だ終結したのではないのであつて、歐洲大戰には戰爭に勝ち乍ら物資の缺乏によつて、あの悲惨な憂目を見た獨逸の歴史があります。此の事實を急迫した國際間の状態を考へる時、吾が民族の大使命である東亞新秩序の建設には物資生産陣の確保を以て統後國民に課せられた最大の務めであるを信じます。

今や吾等は農會旗の下に生産陣營を強化するため敢然と立ちたなければならぬ時であります。

本日茲に縣農會主催によつて生産陣の勇士が多數集まり體驗發表大會を盛大に開かれました事は洵に結構な催しでありまして滿場の諸君と共に第一線の皇軍將兵に對して只管感謝を捧げ當局關係者各位に對しまして、御配意の程衷心より深甚の謝意を表する者であります。

輝く皇紀二千六百年に當り皇祖神のおはします聖地の光榮ある壇上に立つて淺學、非才を顧りみず、所信の一端を體験を語る機會を得ました事は、私にとつては終生の光榮であつて感激に堪へないのであります。其の貧しい内容と拙辭に尊い時間を費し諸賢の御靜聽を煩す事は、甚だ恐縮に存するのであります。

唯今から此の感激の氣持を以つて私が行つて居ります園藝を主とする經營に付き其の體験を申し上げる次第であります。

一本の出瓜から獲れる普通の収入は七、八錢位であります。が、品種の選擇、作り方によつては四十錢内外の収入となり、何處の庭先にも、よく見受ける一株のダリヤでも品種の選擇と作り方を考へますと、一株六、七十錢の収入を見る事が出

来るのであります。田の米、麥作収入は一ヶ年間に百六、七十圓であります。草花や蔬菜を輪作する畑の反當収入は四百圓から六百圓であります。昨年トマトは一作で反當六百圓に近く、草花畑は二畝半から二百二十五圓二十三錢云ふ大きな収入を見ました。經營面積の擴大は願ふ處であります。吾が國の様に耕地面積の狭い處では中々困難でありまして經營の小さい事を聊も悲しまないのであります。

貧弱な十二坪の温室と十二坪餘の硝子温床、五十餘坪の油障子のフリューム、六坪のコンクリート製堆肥舎一棟、蔬菜貯蔵庫一棟、家畜家禽舎、園藝品の加工に必要な新しい器具機械の設備をして田畑合計一町二反歩の小經營をして居ります。

家族の内従業者は四人で米、麥を作つて、米三十五俵、麥三十七俵を收穫し、其の副産物は自給肥料の材料とし又宅地を利用して蔬菜類の促成、抑制、軟化栽培を致して居ります。其の、其の醗熱材料に使用します。刈草、蔬菜の敷葉、其の他の廢物等は堆肥舎に積み込んで石灰窒素或は人糞尿を加へて堆肥を作り、又牛を肥育して肥料成分の多い厩肥を探ります。から肥料費の五十二%を自給してゐるのであります。

蔬菜と草花を合して百種類餘の作物を輪作致しまして、農業總収入の三十六%に當る収入を挙げ大根、干瓢、蔬菜類を加工して居りますので、此の収入が總収入の三十八%となつて居ります。残り二十六%は米、麥と畜産収入であります。

畜力を利用して肥沃な土を河岸から運搬して畑へ寄し地力の涵養に努め、畜力を六十日餘り利用して人力の節減を圖り、此の勞力を販賣に仕向けて居ります。蔬菜や草花を出荷したときは必ず山田から下肥を買ひ受けて歸る事にして居りますので、金肥の節約に大變都合がよいのであります。蔬菜類を少しでも高價に販賣するため其の半は小賣行商を行ひ僅かの種苗、切り花の残り株でも種苗商へ通信して販賣をなし草花蔬菜の高級品は市場商店から電話で注文を受けますので晝夜を厭はず注文に追はれる愉快さに配達して居ります。此の他に趣味の兼業を持つて居るのであります。

以上の複雑な多角的經營をなすに要した家族の勞働日数は一ヶ年千三百七十七日餘であります。

十五圓、日常一圓九十錢餘でありました。工業勞働者の日常に比べますと妙いかも知れませんが、一家揃つて楽しく働いた報酬ですから金額だけで比較する事はできないと思ひます。農業所得は三千三百二十六圓餘であつて楽しい家庭生活をするため、ラヂオや芝居見物、其他の娯樂費に家計費の五分を支出して居ります。又父は好きな川漁を兼業として生活費を助成して呉れます。

私は草花や家畜に興味を持つと共に實用化して居ります。農業は有難い職業であつて勞働は自由で手を休めて居る間も作物は無心に育ち、ラヂオを聞く一家團聚の夕べ、明日の豫定と今日の仕事を一家笑つて語つてゐる間も作物や家畜は育つてゐるのであります。

私の經營は未だ充分でなく日下の東亞建設の様に第一階段にあるので先輩方の残された跡を見る時、鉢巻を堅く締めて進まなければならない事が多々あるを自覺してゐるのであります。それですから苦闘の中に幸福を求めて辛苦、困難を聊も恐れないで進む決心で居ります。

唯宅地四畝歩餘りから年收五百幾十圓を上げる云ふ借

越な發表をしましたが、私は仕事によつては普通より倍も三倍も能率を擧げて働き技術も相當研究しましたので、俺は百姓だ云ふ自信があります。年の初めに經營の計畫を樹てます時は來年は、大きな希望に溢れて計畫を致して居ります。心爽で春風に吹かれて伸びる作物の新鮮な香りに酔ひ、又寒中花咲き亂れる温室で口笛吹きながら水を與へて一家揃つて愉快に働いて居ります。

然し私も今から十年前の青年時代には燃へる様な向學の志を抱いて居つたのでしたが家庭の事情で達する事は出来ませんでした。一時は落膽し不遇をかち田畑を捨て職を捨て都會へ出て學びたい一念でありましたが其れは遂に許されなかつたのであります。

黙々として働く時、世は春となつて宅地の一角に播いた胡瓜が分厚い土を押し上げて伸びやうとし土も又育てやうとして居ります。其の自然の大きな力を見た時、私は靜かに考へました。俺も未だ若いのである。一粒の種子、一握の土でさへ伸びる力を育てる力がある。まして人間である私は努力さへすれば立派な農業者になれると信じ愈々農業で立つ決心をし

立派な農民として終生を送りたい願ひをしたのであります。今も尙残つて居りますが宅地の一隅に碑を立てて堅い決心を誓ひ將來を祈つた事もあります。

其の後は種子、土、自己は鼎の三本足になつて共に語り、共に欣び、共に悲しんで自己の全生涯の幕を閉ぢる決心を父に篤く語つて經營の改善、刷新の自由を許されたのであります。

昭和六年は一町二反歩を經營して家族四人が雨の日も風の日も云つた文字通りの努力をして、一千二百五十餘日を働いたのであります。其れに酬ひられたのは幾何であつたか耕地の反當所得は百圓に満たないで一日の報酬は九十錢に足らなかつたのであります。當時の日備日常は一圓で田の賣買價額は反當八百圓から一千圓でありました。田畑一町二反歩が舊式ですが農具、建物等を使用して日備日常にも足りない所得に私は愕然としたのであります。

農業經營に技術と科學と經濟が如何に必要であるかを知りましたのは、園藝と農産加工を經營に組み入れてからの事でありました。最初は技術と設備に憧れ書籍を讀んで實行に移

し、先進地を視察しては其の方法を見習ひ、又蔬菜類の輪作設計を作るために如何程の用紙を紙屑としたか知れないのであります。農業の書籍を讀み續けて曉の鷄鳴に驚き一睡もしないで働いた事もありました。又先進地である愛知縣の園藝に付いては畜田技師に師事し大阪、大和の多角的經營法に付いては小田技師の休日を利用して教へを乞ひ又縣立農事試験場、安城町の板倉農場、大阪の神立村西山農場等幾多の篤農家の門を叩き埼玉、新潟、九州等の園藝に付いては月報によつて學び、新刊書籍も購讀して技術と經營法の研究に種々努力したのであります。又今は亡き岩本技手には設計の指導に預つた事が多いので、其の後改善と研究を重ねて漸く俺は百姓だま云へる様になりましたが今や岩本技手は世に居ないのであつて追憶の涙の新たな事があります。

種々苦心しました生産技術の詳細を申し上げる時間がないので残念ですが、作物は葉の色を見て其の聲を聞くことが出来又語り得られるのであつて、土の色を見て生育の優劣を判断し其の結果を知る事ができます。摘心摘芽には適當な時期があつて、肥料と水の施し加減で早熟、抑制、増産の秘訣の

ある事を聊か心得へました。努力の節減、輪作の合理化、經營の確實性を圖つて居りますが、今日迄には語るも恥しい考へても泣きたい様な幾多の失敗と苦心を繰返してゐるのであります。

唯今温室ミフレームが整然と並んで私の農業經營上最も大切な場所は十年前には収入の殆んきない藪であつて、芥を捨て、居りました。其れを考へますと感慨無量であります。藪を切り開いて温室や温床の設備をする時は祖父が大變心配して反對をしましたが、唯今では収入を上げる主要な土地となつてゐます。土地は狭くても利用の方法によつては随分収入を上げる事ができます。

此處に失敗や苦心の二、三を申し上げるに、通信プロカーに宛られて半年の間努力を續けた五畝歩餘りの作物は價値のないものと判つて、無残にも引き捨て人々の笑話の種となり。又見事に成熟した收穫前の瓜が二、三日の雨天續きで虫害を蒙つたり、一反歩餘りのトマトが熟期を前にして、腐敗と青枯病のため大被害を受け手當の方法がなかつたりして、私の技術の幼稚なのを恨んだ事もあつた。又水田へ作つた七

畝歩の白菜が風水害で無くなり、二度播きしたものが見事な成績を収めて反當にして三百餘圓の収入となり苦しみが變つて喜びになつた思ひ出もあります。

肥料や藥劑に注意し冷害を防ぐため吹雪の夜る温室の前に立つて寒やずに心配した大切な作物を一夜の内に青枯せしめた事もあるので、フレーム栽培は苦心が多いので失敗するに大きな苦痛を受けます。小賣販賣に半日駆け廻つて五十錢の茄子しか賣れず困り抜いた事もあつたが唯今は商店から直接畑へ取りに来て呉れる事が多くなつたので大變販賣は樂であります。或る時は定植して間もない茄子や胡瓜が早魃に耐へ兼ねて萎れてゐるので、風邪で休んで居た體に鞭打つて終日水を荷ふて灌水し、疲勞のため茄子畑の中へ倒れて居つたのを助けられた事もあつた。未明に畑へ出て暮れても尙歸らず、月明りで仕事をした事等今では笑ひ話として居りますが、過ぎた十ヶ年は随分と苦闘をしてきました。其の間私を慰め又勵まして呉れたものは両親であります。無心の種子や土も絶へず慰めて呉れました。

伸び様とする種子、立派に育て様とする土に若し障害の來

る様な時は来るなら来いご最善の努力を惜しまないのでありまして、如何なる苦闘も恐れず自から其の苦闘の中に身を投げ入れて辛苦ご戦ひ通してきたのであります。

其の苦闘を慰め最も喜しく感ずる事は昔て私の失敗を突ひ、冒險だご誹つた人々が成績を認めて跡を追ひ、當區二十戸の農家が戸毎に蔬菜園藝、フリューム栽培を行ひ、小賣行商にも出て、必要な物の共同購入をなし、部落一同が擧つて經營の研究ご改善に努力する様になつた事でありませぬ。唯今では蔬菜早熟の歴史を誇つた隣村よりも私の部落は早く出荷する様になり高級品を生産してゐるのであつて、隣村の老農から蔬菜栽培上の質問を受ける様になつたのは、過去に流した汗ご涙の結晶であるご感謝をして居ります。經營上に付き第二次計畫の羅針盤を持つて居りますから、今後は之れに向つて着々ご進みたいご考へて居ります。

無心の種子、一握りの土ご雖も、皇國に盡す尊い生産力があるのであつて、私の様に温室や温床を經營して小面積から収入を上げて居る者は其の感じが一層深いのであります。

坪餘りの温床は數ヶ月で二十餘圓の生産を得る事ができ一坪の温室は年收三十圓の収入を上げます。雜草の生へ繁つて居る温い藪蔭や山蔭を見る時、或は僅かでも肥沃な土を路傍で見出す時は利用の途が私の頭や五體に脈々ご躍動します。

殉國の血に燃へる滿場の諸君、吾等の一舉一動は生産的でなければならぬのである。畏くも陛下に於かせられては赤坂離宮内に水田を御設備遊ばされて、大君御躬ら稻を御試作遊ばされたご洩れ承つて居ります。誠に恐懼感激の極みご申さねばなりません。ローマの滅亡や歐洲大戰に獨逸の敗北した歴史は非常時の吾等に努力、辛苦、犠牲を充分覺悟せよご教へて呉れるものではありませんか、昔から革命に明け、革命に暮れて居る西歐の國々でも、民族のために目下犠牲を恐れず、困難に耐へて戦つて居るではありませんか。忠勇ご團結力を誇る吾が國民は非常時の困苦、犠牲に不平を云つてはならない吹雪の陣中に立つてゐる歩哨を思ひ、炎熱の中で生命を捨てて戦つてゐる將兵を考へる時、吾等は確固たる精神を以て進まなければならぬのであります。

薄志弱行の私の體驗談に永らく御靜聽を煩しました。諸君ご共に此の急迫した御國の生産陣營に微力ながらも不斷の努力を捧げて、大君の興亞の聖業を翼賛し奉らん事を固く御誓ひ致します。終りに臨み諸君の御健康を祈り降壇する次第であります。

(附記 本農家へは參念本線小俣驛より十八町)

農業經營調査成績

(一) 家族		(二) 經營面積	
氏名	年齢	所有	借入
經營主 奥山清之助	三三	四,000	四,000
妻 初恵	二六	一,三三八	一,三三八
父 清太郎	五五	一,三三八	一,三三八
母 ぎん	五三	一,三三八	一,三三八
祖父 白松	八〇	一,三三八	一,三三八
非從業者 長男	〇	一,三三八	一,三三八

(三) 農業收入

種	計	種	計
水稲	五,三三六	普通畑	六,101
小麦	七〇八	宅地畑	七〇一
粟	八,〇一五	其他	一〇〇
大豆	五〇三	計	六,九〇三
甘藷	二〇,〇七二	原野	一,三三〇
蔬菜	四〇一	計	一,三三〇
綠肥	一,二〇五	計	一,三三〇
温床	一五坪	計	一,三三〇
温室	二〇坪	計	一,三三〇
種苗	三三	計	一,三三〇
計	三三	計	一,三三〇
切花	四,〇〇〇本	計	一,三三〇
鉢花	八〇鉢	計	一,三三〇
株花	一,〇〇〇株	計	一,三三〇
計	一,〇〇〇	計	一,三三〇

種目	現金	現物	計	備考	畜		農		役牛
					養鶏副収入	肥	鶏	肥育牛	
養鶏副収入			四六五〇		一頭	利益金	一〇〇,〇〇		一頭
肥			三五〇〇		二頭		二六,〇〇		
鶏			四七,〇〇		一頭	販賣小鶏	一五〇,〇〇		
養			一三三,〇〇		一頭	親鶏	三〇,〇〇		
計			五五九,〇〇		一頭	鶏卵	一三〇,〇〇		
農			二二,〇〇		一頭	鶏糞	一〇〇,〇〇		
大根			三三,〇〇		一頭	販賣	二二,〇〇		
干			四四,〇〇		一頭	販賣	一七,〇〇		
産			三三,〇〇		一頭	販賣	三三,〇〇		
加			三三,〇〇		一頭	販賣	三三,〇〇		
工			三三,〇〇		一頭	販賣	三三,〇〇		
合			二,六四,八〇		一頭	販賣	二,六四,八〇		
計			五,八八,八三		一頭	販賣	五,八八,八三		

備考 山田市ヨリ人糞尿吸取リタル数量二四〇〇貫

種目	現金	現物	計	備考
加工原料費			五七,〇〇	
雇賃			五五,〇〇	
畜力費			三三,〇〇	
賃借料			四,五二	
租税公課			一六,六二	
其他			七,八二	
計			一,五九,四七	
農業			九七三,五九	
業			五,八六,八三	
差引			二,五四,〇六	
農業所得			三,三六,七二	
耕地一反當			三〇,四三	
家族一日當			二,四三	

備考 農業所得ノ經營面積一町一反三畝一步ニテ除シタルモノ



北牟婁郡尾鷲町矢ノ濱 野田甚太郎

私は唯今御紹介に預りました、北牟婁郡尾鷲町矢ノ濱の野田に申す者で御座います。

此の度、縣農會主催の選抜農家經營發表大會が皇大神宮鎮座の神都で開催されるに當り私も出席して、至極く農業に御熱心な皆様方の前で私の様な研究の乏しい者が經營發表をさせて戴く事は身に餘る光榮に存じます。

私は大衆の前で話をすることが初めて、御座いますし、言葉も紀州訛りで皆様に御解り難い事存じますから、其の点悪しからず御了承願ひます。

私の耕作して居ります土地は田八反五畝、内七反は所有で一反五畝は借入であつて全部二毛作をする事が出来ます。畑は開墾地で田畑合計一町歩で御座います。

唯今自宅に居ります家族は八人であつて、農業に従事する者は私と妻四十八歳、兄二十六歳、長女二十二歳の四人で御

座います。他に三人の息子がありまして、二男は二十四歳現役兵で久居聯隊に入營中、三男は二十歳で名古屋の鐵工場で職工として働き、四男は十八歳で度會郡養浦で自動車の運轉手をして居ります。

耕地が狭いので副業として湯屋業、精米業、米穀雜貨、壁土の販賣等種々の事業をやつて居ります。

私の住んで居ります尾鷲町の状況を申し述べますと、戸數は三千四百戸、人口約一萬六千人、耕地は田百六十四町歩、畑百十町歩であつて最近山林を開墾して二十四、五町歩の畑を作りました。農家は五百戸でありますから一戸當り平均田三反三畝歩、畑二反歩餘であります。主要な農産物の收量は平年米二千五、六百石、稗麥八百石、小麥二百石であります町で消費する米は一ヶ月一千六百石位でありますから町内の生産米では約一ヶ月餘りの消費を満すのみであつて年々一萬八千石位の米を移入して居ります。

私の部落は戸數二百四十戸、人口千三百人であつて、内農家は七十戸、他の大部分は林業労働者であります。耕地は田六十三町歩、畑十五町歩、計七十八町歩でありますから、農

家一戸當り田七反歩、畑二反歩となりませぬ。

野菜類は地方での生産が少いので移入が非常に多く従つて値段も大變高いのであります。依て蔬菜を栽培することは適當でありますから農家に栽培を奨めて居るのであります。

私は唯今から『事變下國策に副ふ金肥の節減と農産物の増産』に付いて發表を致します。自給肥料の増産に付いては率先實行し、又一般農家に對しても普及徹底する様に極力努力して居る次第で御座います。

農産物を増産するには地力の増進を圖ることが最も大切であつて、地力の増進は自給肥料を施用することにあるのであります。私は金肥を施さないで増産する事に努め又此のことを農家にも奨めて居ります。農家の中には金肥無しで増産することが出来るか云つて居る者もありますが、私は努力次第で出来るに信じ又實行して居るのであります。私の家は湯屋をして居りますので其の副産物である木灰は一日五升、一ヶ月二十九貫、一ヶ年三百五十五貫を生産します。他に塵芥竈を設備し自宅で出来た塵芥を集めて灰となし、一ヶ年に約八百貫の灰を作りますから合計一千百五十五貫となり、此の

灰は總べて肥料として使用します。役牛一頭を飼養して居りますから厩肥の生産量は一ヶ年に約二千貫、山草は一年に二千貫を刈り取り堆肥として施用して居ります。以上述べた様に自給肥料の増産には努めて努力して居りますから金肥の施用は大變少いのであつて昨年は過燐酸石灰三噸、石灰窒素三噸、棉實粕二十貫金額にして四十圓を施したに過ぎませぬ。

昨年の十月津の石水會館で昭和の二宮尊徳云はれてゐる山崎延吉翁の講演を聞きました其の際、何事も技術が最も重要であると話されたのを覚えて居ります。技術を磨くには熱心、勤勉、忍耐が最も肝要であります。金肥なしで増産が出来るものか云つてしまへば其れ迄ですが、

成せばなる成さねばならぬ何事も

成らぬは人の成さぬなりけり

の句を思ひ出すに何事も成せば出来ること、信するのであります。

尾鷲地方の農業は耕地が極めて少いので二毛作以上、三毛作、四毛作云ふ復讐な經營をして土地の利用を圖らなければなりませんので、私も二毛作から三毛作、四毛作をして居

ります。四毛作經營方法の概要を説明します。十月下旬稻を刈り取り畜牛によつて耕耘、整地をして麥を播種致します。其の方法は六尺の廣畦をしまして畦上に麥を二條播付け其の間へ菜類を條播(二條)して三月末迄に收穫します。五畝歩で菜類は三十圓位の収入があります。

菜類を收穫して四月十日頃になると、麥の兩側に温床で育てた胡瓜苗を移植します。五月二十七、八日頃に麥を刈取り直ぐ木の枝で胡瓜の支柱を作り五月中旬から收穫を初め七月中旬で收穫を終わります。胡瓜は五畝歩で百四十圓位の収入を上げる事が出来ます。夫れで四毛作の収入は菜類三十圓、麥六斗で十八圓胡瓜百四十圓でありますから合計百八十八圓の多額となります。茄子、トマト、胡瓜等の苗は一月下旬頃、温床へ播種して育て後田へ移植する事にして居ります。氣候が温暖でありますから蔬菜を早期に作るには至極く適當であります。

蔬菜栽培跡へ七月十八日頃田植をしますには苗の育て方に注意をしなければなりませんので、他の田へ假植して置いて其れを抜きこり植付を致しますから普通植の田に成績は左程

變りませぬ。除草も一、二回でよろしい、肥料も菜類や胡瓜等に施した肥料が残つて居りますので普通田程は要りませぬ。石灰四貫、木灰四十貫位を施して五畝歩で米三俵位の收穫があります。一俵十六圓に見積ると四十八圓となり四毛作合計で二百三十六圓となります。肥料代は三十六圓でありますから差引き五畝歩で二百圓の収益となります。

三毛作のやり方は、十一月上旬稻を刈り取つた跡へ六尺の廣畦を作り、麥播きをして四月中旬麥の間に茄子やトマトを移植します。五月の末に麥を收穫して六月中旬から茄子やトマトの收穫を初め九月末頃に收穫を終わります。其の跡へは十月上旬に夏蒔甘藍を移植致します。翌年の二月末から三月下旬迄に收穫します。夏蒔甘藍は七月中旬に日覆をして苗床へ種子を播種して苗を育て、置きます。

其の収入は五畝歩で麥六十八圓、茄子、トマト百五十圓、夏蒔甘藍百五十圓、合計三百三十八圓であつて三毛作の肥料代は五十圓でありますから差引き二百六十八圓の利益となります。今一つの方法は十一月に麥を九尺置きに播種し其の間へ四月上旬に西瓜の種を下し七月中旬から收穫を初め九月の中

頃に終ります。其の後作として九月下旬に結球白菜を播種致します。白菜は一月下旬から収穫を初めます。此の方法による五畝歩の収入は麥十八圓、西瓜百圓、白菜百五十圓、計二百六十八圓であつて施用の購入肥料は六十八圓でありますから差引き二百圓の利益になります。

二毛作は表作が水稻で裏作は麥類、秋蒔甘藍等を作つて居ります。昨年度二毛作田の反當収入は米八俵百三十六圓、小麥四俵五十圓、計百八十六圓であつて購入肥料代八圓を差引き百七十八圓の利益になります。

農村の事業は共同の力によつて効果の上がるものであり、其の力は洵に大きなものでありまして、昭和六年の大洪水の際には井堰、水路、堤塘等は決潰し、水田約十五町歩は川原の様な状態となつて實に惨めな損害を蒙りました。一同は大變驚きましたが、共同一致の力によつて復舊する事に堅い決心をして、耕地整理組合を設立して縣から補助金を受け二ヶ年の間に全部完全な復舊工事を致しました。井堰、水路は全部コンクリート張りに致しまして、永久に使用出来る様頑丈な工事をしましたから農民一同は非常に喜んで居ります。今

後如何なる旱天に遭遇しましても灌漑水に不足する様な事はなくなり非常時局の増産を期する上に多大の効果を收めて居ります。其の後引き續き汐止工事、排水樋門、耕作道路等の新設工事を施行して努力不足の農村に對處し米穀の増産に最善の努力を致して居ります。其の他共同事業として傾斜の畹い山林約七町歩を四十名の農家組合員が共同で購入して開墾耕地整理組合を組織し農林省の助成を得て開墾事業を実施して居ります。昨年から初めたのであつて唯今で約半分程開墾しました。開墾地へは宮川早生、温州蜜柑の苗木四千本を植えましたから將來相當大きな利益を上げる事が出来る有望な事業と思ひます。又間作には陸稻、麥類、野菜類等を栽培して居ります。蜜柑、間作共に組合員の共同經營によつて居るのでありまして、戦時下の農産物増産に一大努力をして居るのであります。私の所有田は粘質土壤でありますから作物は遅出來しますので此れを改良するため本年は耕地整理課の設計に基き川砂を分厚く入れる計畫を樹て客土を實施して、土地の根本的改良を圖つて居ります。稻は反當四石稗麥、小麥は反當三石の收穫を目標として努力して居ります。話はあち、

こち前後して居りましたので甚だ御解り難い事存じました。何か皆様の御参考になる事がありましたら幸甚の至り存じます。之れを以ての私經營發表を終わります。

最後に皆様方の御奮闘と御健康を御祈りして降壇致します
(附記紀勢東線省營バス(尾鷲—木本間)矢ノ濱停留場下車)

農業經營調査成績

(一) 家族

經營主	野田 現太郎	年齢	三三	勞働能力	二〇	備考
妻	まつ	年齢	三六	勞働能力	一〇	
長男	芳夫	年齢	三三	勞働能力	一〇	
次女	ふみか	年齢	三三	勞働能力	一〇	
三女	方代	年齢	一五	勞働能力	一〇	小學校在學中
五男	雅名	年齢	二二	勞働能力	一〇	
六男	宜章	年齢	一八	勞働能力	一〇	
計	莊六	年齢	五	勞働能力	一〇	

(二) 經營面積

所有	借入	貸付地	備考
一毛作田 〇〇〇,七〇〇	一毛作田 〇〇〇,一〇〇	一毛作田 〇〇〇,〇〇〇	
計 〇〇〇,七〇〇	計 〇〇〇,一〇〇	計 〇〇〇,〇〇〇	

(三) 農業収入

普通畑	一,五〇〇	普通畑	一,五〇〇
柑橘園	一,五〇〇	柑橘園	一,五〇〇
田畑計	八,五〇〇	田畑計	一〇,〇〇〇
山林	三三〇	山林	三三〇
合計	八,八三〇	合計	一〇,三三〇

作付反別 又ハ數量

水稻	八,五〇〇	生産高	八五八,〇〇
蔬菜	二,五〇〇	生産高	五〇〇,〇〇
粟	二,五〇〇	生産高	一〇〇,〇〇
麥	二,〇〇〇	生産高	一四〇,〇〇
豆	五〇〇	生産高	一六,〇〇
紫雲英	一,〇〇〇	生産高	八,〇〇
計	一七,〇〇〇	計	一,五八四,〇〇

養牛 一頭 二,〇〇〇圓 計 二,〇〇〇圓

山林 薪 一,三〇〇圓 計 一,三〇〇圓

其他 薪 一〇〇,〇〇圓 計 一〇〇,〇〇圓

合計 一,七六四,〇〇圓

(外ニ山草一,〇〇〇圓)

(四) 農業支出

南牟婁郡有井村大字有馬

仲森奈良光



不肖私南牟婁郡有井村の仲森奈良光であります。今回計らずも郡農會の推薦を受けて、榮えある此の大會に参加出来得ました事は、私の最も光榮とする所であります。私は未だ若輩である爲經驗は至つて淺く、且つ研究心に乏しい爲め何等の成果も舉げて居りません。然るに先輩の皆様方を前にして自己の經營状態を述べざる事は餘りに僭越の極みであること、衷心恐縮に堪へない次第であります。然し私の氣持としては經營研究の發表云ふ様な事柄では無く、未完成なる私の經營状態を此の機會に發表して、先輩諸氏なり、或は縣農會の方々に御批判を願ひ、併せて御指導を賜り度い心持で發表する次第であります。私は未だ斯の様な壇上に立つて御話をした經驗はなく又話も極く下手であつて、それに草稿を作成し暗記も充分出来て居りませんから、其の点惡しからず御諒承願ひ、暫らくの間御静聽を御願ひ致します。

種目	現金	現物	計	備考
農具費	30,000	—	30,000	
種苗費	10,000	—	10,000	
飼料費	—	75,000	75,000	
肥料費	100,000	100,000	200,000	
藥劑費	10,000	—	10,000	
小作料	—	—	—	小作料三依
負債利子	300,000	—	300,000	
租税公計	6,000	—	6,000	
計	496,000	175,000	671,000	
農業収入	—	1,777,000	1,777,000	
農業支出	—	723,360	723,360	
差引(農業所得)	—	1,053,640	1,053,640	
農業所得	—	1,053,640	1,053,640	
耕地一反當	—	104,400	104,400	(農業所得ヲ經營面積二町歩ニテ除シタルモノ)
家族一日當	—	26	26	(農業所得ヲ家族ノ從業日數四〇〇日ニテ除シタルモノ)

先づ家族並に勞働能力に付て申し上げるに、家族は全部で五名でありまして、農業に従事する者は父が五十八歳、母が四十六歳、私が二十七歳、妻が二十歳の四人であつて、各々の勞働能力は十になつて居りますから勞働能力合計は五十になります。弟は小學校に在學中であつて、農繁期に手傳を致して居ります。次に耕地の概況を説明しますに、自作地と小作地とに分かれるのであります。自作地は田一町五畝でありまして、一毛田九反一畝、二毛作田一反四畝、畑は五反であります。普通畑五畝、柑橘園一反、開墾地一反五畝であります。小作地は田七反八畝でありまして、一毛作田四反二畝、二毛作田三反六畝、畑は二反五畝で開墾地であります。總耕地面積は二町三反八畝なるのであります。

田地は平坦地と柵田とに分れて居りまして、平坦地は一町四反五畝歩であつて、何れも自宅から三町以内の距離に散在し、内一毛作田は九反五畝歩、二毛作田は五反歩であり、沖積層の肥沃なる粘質壤土になつて居ります。柵田は面積三八畝で自宅から三町以内の距離に散在して居りまして、總べて一毛作田であつて、土質は肥沃なる粘質壤土であります。

普通畑五畝は自宅の直ぐ前にありまして、温床の設置とから蔬菜類の栽培を致して居ります。

蜜柑畑一反歩は自宅から約十八町の距離にありまして、従前は桑園として經營して居りましたが、七年前に普通温洲を一町半に二間の距離で桑の間に植付け爾來、年々桑株を整理しますので、現在では純柑橘園として經營して居ります。

開墾地中の自作地一反五畝歩は自宅から約五町程の山林内にあります。昭和十一、二年に上木を賣却し伐採しましたので地勢、氣温、地質等柑橘栽培に最適地であること認めまして直ぐに開墾に着手し十二年の末一部完成しましたので、取り敢えず十三年の春から夏蜜柑百本を植付し、爾後開墾を繼續して本年二月末一通りの完成を見ました次第であります。小作地二反五畝歩は自宅からの距離二町の處にあつて傾斜地であります従前は竹林雜木林でありましたが、昭和十三年私の所屬して居ります農家組合に於て、之を借受け開墾して蜜柑を植栽せやうとしましたが、種々の事情によつて翌年の春、經營中止をするより止むを得ない状態になりました。私は此の事業を起すに付いて最も努力し、又借受代表になつて居りま

した關係で、之を中絶する事は忍び得ませんので、若干の代償を支拂つて其の権利を譲り受け、開墾を続け遂に本年二月末其の完成を見ました。尙收益を得る様に至りましたら其の割を小作料として、借主へ納める約束になつて居ります。其の他に山林十三町五反、竹林二畝、原野三畝等を所有して居りまして、何れも自宅から五里以内の處に散在して居ります。現在植林中のものは三町歩内外でありまして、自宅から一里半程の處にあります。

右の耕地を利用して栽培する作物の主要を述べると次の通りであります。水稻の栽培面積は一町八反三畝でありまして、稲の生産高は二百六俵半、此れを玄米に換算すると、二百二十四俵反平均収量を米約七俵となりまして、裏作には小麦二反歩、稗麥二反歩、西瓜六畝歩、甘藷二畝歩、胡瓜一畝歩、トマト一畝歩、蔬菜五畝歩等を栽培しまして、小麦は十三俵、稗麥は十四俵の收穫を得、西瓜は三百五十貫、蔬菜は七十五圓餘を上げて居ります。

尙柵田の畦畔に栽培する大豆で三俵半の收穫を得、金額にして、四十二圓五十錢の收入を得て居ります。又柵田の畦

定配合である。稻肥、麥肥を施用し、木灰等の加里肥料を増加する事に努め、米質の改善を計り、努めて單肥の施用を避けて居ります。

自給肥料は特に堆肥、厩肥の増産に努めると共に人糞尿の汲取りをして居ります。人糞尿は隣りの木之本町から無料で貰ふのでありまして、冬の間は何處の家にも麥や蔬菜に潑山施用します。農閑期でありますから擧つて貰ひに行きますので勢ひ下肥も少いので私は自宅の近くに横一間半縦三間深さ五尺の大きな肥溜めを造りまして、夏期の餘り肥料の必要で無い又他の人々の貰ひに行かない時期に努めて行きまして、全部此の肥溜めに入れて置くのであります。而も夏の下肥は町の人々も注意して水等は少しも入れて居りませんので冬期の下肥に比べると二倍位濃いのであります。ですから私は之を水で二倍位に稀釋して十分に腐熟させて置き必要に応じて施用するのであります。尙夏は何處の家でも下肥が溜つて困つて居りますから、汲取りに行きます町の人々の喜びと、待遇の良い事はお話になりません。時折はバット一個や金の五十錢位は貰ふ事があります。夏の下肥を貰ひに行きま

畔裏作として豌豆を栽培し五十貫餘の生産を上げて居ります。

次に養畜であります。現在は役用と犢の生産を目的として牝牛一頭を飼育して居りますが、厩肥の増産と、肥育の目的を以て、更に本年度に去勢牛一頭を飼育する豫定であります。養鶏は白色レグホン種百羽を飼育し、採卵と濃厚肥料の自給をめざして居りますが、昨今の様に飼料の不足によつて、各養鶏家共に困つて居りますので、今後は此の対策として極力飼料の自給化を計らなければならぬと思ひます。私は本年度の方針として飼料の五割は自給する目標であつて、又實行する自信を持つて居ります。養兔は昨年度國策に呼應して飼育を始めたのでありまして、現在は毛皮を供出し兎肉は自家用を目的として居りますが、今後は飼育頭数の増加を圖つて兎肉の販賣も考慮して居る次第であります。

肥料に付ては自給肥料の施用を増加し、深耕によつて極力地力の増進に努め、以て購入肥料の節減に最善の努力を拂つて居りますが、昨年度は旱害のため速効性肥料を多量施したので、相當多額を要しました。肥料は主として有井村農會指

すことは、肥料成分が冬の倍量も有る様な良い下肥を得られ町の人々に喜んで貰ひ其上良く腐熟させて施用する事が出来るので、肥効は萬点であります。尙其の上時折御禮の品迄も藏けるに云ふのですから此の様な愉快な面も得策な事はありません。養鶏、養兔による自給肥料増産、或は綠肥作物の栽培に留意して居りますので、昨年度に於て厩肥約一千貫、堆肥二千貫、人糞尿汲取數量二千五百貫、鶏糞三百六十貫の生産を得て居ります。綠肥は開墾地へ植付けた柑橘の間作に、ルーピンを一毛作田の一部に紫雲英を栽培し、計一千貫の生産を上げて居ります。

以上申し述べました經營に如何程の勞力を要して居るのかと申しますと、時間にして總計一萬九百五十六時間（一千五百五十五日）であります。其の内譯は家族の勞力九千九百七十八時間（二千九日）日雇四百五十七時間（三十五日）手傳五百二十一時間約五十一日であるので、手傳勞力の内には共同作業に出た手間返しも含まれて居ります。尙之を主なる作物別に見ますと、稻作四千三十七時間、麥作に一千三十三時間、蔬菜に三百八十六時間、果樹に三百八十時間、植林に六百七時

間になつて居ります。

畜力利用時間は總計五百一十一時間でありまして、稻作四百十二時間（四十二日）麥作七十時間（八日）蔬菜二十九時間（三日）になつて居ります。

次に米麥作の反當所要金肥及自給肥料、勞力、畜力等に付て申し上げます。次の通りであります。稻作は反當金肥代六圓三十錢であつて、自給肥料は厩肥百十貫、堆肥百五十貫、鶏糞二十貫、紫雲英六十貫を施用して居ります。勞力は反當二百四十二時間（二十四日五分）畜力二十三時間（二日三分）になつて居ります。麥作は金肥代三圓五十錢、完熟堆肥百貫、人糞尿一千貫倍量に稀釋した貫數であつて二回に施用して居ります。人力は二十五、八時間（二十七日二分）畜力十七時間（二日）になつて居ります。尙之等の主要作物の一反歩當りの全収入に付て申し上げるに、水稻は百十四圓餘、麥で七十圓餘になつて居ります。之等の主要作物を栽培して一日當りの勞働報酬は如何程になつて居るかを計算して見ます。水稻は四圓三十九錢、麥作は二圓四十四錢、西瓜は六圓二十六錢になります。此の計算には施した自給肥料、使用し

た畜力を見積つて差引いて居りませんが、兎に角一日當りの勞働報酬は斯の様な計算になりますので經營組織の如何によつては農業は決して他の職業に比し劣らない有利な職業であると思考する次第であります。以上は經營狀態の主要でありまして、誠に貧弱なもので御話し申して恐縮に存じて居る次第であります。

最後に私の經營中で特に力を入れ、又實際効果を擧げて居る事項に付いて一言申し上げ御批判をお願いしたいと存じます。其れは水田利用による三毛作又は四毛作であります。熊野地方は冬期が暖かですから、天恵を最も有効に利用致します。大した技術も要らず容易に實行する事ができます。四毛作の一例について申し上げます。第一作は麥、第二作は玉葱、第三作は西瓜、第四作は水稻であります。此の栽培を致しますには、十一月中に四尺位の畦幅に田を耕起しまして、十二月の中旬一畦置きに普通の播種方法によつて麥を播種し空地の方は一月中に碎土機をかけて土を十分碎き二回程耕耘して風雨に土の全面を十分晒して置き、二月中頃に玉葱を其の一方の列に植付し、西瓜は三月中旬特殊の方法によつて播種

します。麥は五月下旬刈取りますから其の跡の土を兩側に引分けて直ちに敷藁をするのであります。玉葱、西瓜共に七月下旬に收穫を終り、水稻を八月初旬に植付け十一月下旬收穫を行います。此の栽培方法による麥を反當四俵位收穫するのは容易であつて、西瓜は六百貫から一千貫位、玉葱も五十貫位の收量があり、稻作は普通栽培法の八割から十割程度の收穫を得る事が出来るのであります。水稻栽培には殆んど肥料を要せず、植付當時に成育を促進する爲め若干の硫酸を施用する程度で十分であります。四毛作の反當總收支計算所要勞力及一日當りの勞働報酬に付て申し上げます、収入は四百七十六圓五十錢、支出は金肥代十八圓三十錢で差引き四百五十八圓二十錢の収益になります。所要の勞力は七十六日でありまして、一日當りの勞働報酬は六圓三錢になります。此の他に支出として自給肥料がありますが、此の價額は差引いて居りませぬ。又此の栽培方法による、稻作や麥作の閑な時に植付や刈取り等の多忙な仕事ができるので勞力の調整上非常に有利であつて紀南方面の水田裏作として最も有望なる經營方法である事を確認致して居ります。今後益々此等の

栽培に力を注ぎ度い所在であります。一昨年から村農會の委託を受けて水稻の晩化栽培を致して居りますが、其の結果から見まして、熊野地方はさうしても水稻の早植は警戒せなければなりません。大正の末期から昭和の初め頃までは田植を急いだ爲め二化螟虫の大被害を受けて大減收を招き、反當四俵位の收穫が普通でしたが、昭和の初期以後は田植時期の晩化を圖る様になつたので、一躍六俵以上の收穫を得る様になりました。之は單に植付時期の問題許りでは無いと思ふが植付の晩化が最大原因をなして居る事は見逃がせないであります。

麥作も從來は反當收穫四、五俵でしたが、先覺者や農會當局の御指導宜しきを得て、種々の研究をし栽培方法の改善をいたしました結果六、七俵の收穫を得る様になりました。將來の方針は有畜農業の合理化に依つて自給肥料の増産を圖り、家畜飼料の自給化を確立し、水田利用の集約栽培、米、麥作の晩化栽培によつて、勞力の調整を圖り益々經營の改善に努力せんとするものであります。私の發表は之で終りま致します長時間の御靜聽洵に有難う御座いました。

(附記) 本農家へは木之本町より約一里)
農業經營調査成績

(一) 家族

經營主	氏名	年令	勞働能力	備考
從業妻	中森奈良光	三〇	〇	
業者父	千鶴	三〇	〇	
者母	若松	三〇	〇	
非從業者(弟)	利治	一五	一	

(二) 經營面積

所有	借入	貸付地	備考
一毛作田	九,一〇〇	一四,一〇〇	
二毛作田	一,二〇〇	四,一〇〇	
田計	一〇,三〇〇	一八,二〇〇	
普通畑	一〇,〇〇〇	一八,〇〇〇	
果樹園	一,〇〇〇	一,〇〇〇	
畑計	一一,〇〇〇	一九,〇〇〇	
山林	一三,〇〇〇	一三,〇〇〇	

(三) 農業收入

水稲	作付反別	又ハ數量	生産	高	備考
稻	一八,〇〇〇	二四,〇〇〇	二,〇八,一〇〇		
小麦	二,〇〇〇	一四,〇〇〇	二,〇〇〇		
粟	二,〇〇〇	一三,〇〇〇	二,〇〇〇		
大豆	六〇〇	五,〇〇〇	六,〇〇〇		
胡瓜	二〇〇	七,〇〇〇	一四,〇〇〇		
蕃茄	一〇〇	一,一五〇	一,一〇〇		
其他	一〇〇	五〇〇	一,一〇〇		
果樹	一,〇〇〇	八〇〇	二,〇〇〇		
計	三五,〇〇〇	一〇,〇〇〇	二,六三,〇〇〇		
養鶏	一頭	一五〇	一五〇		
養鴨	一〇〇羽	一五〇	一五〇		
畜肥	一,〇〇〇貫	一,〇〇〇	一,〇〇〇		
畜糞	一,〇〇〇貫	一,〇〇〇	一,〇〇〇		
計	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇		
農産(製)	三七〇貫	三七〇	四,一八六		
加工	二七〇貫	二七〇	四,一八六		
山堆肥	二,一〇〇貫	二,一〇〇	五,五三三		
林間伐材	一,〇〇〇本	一,〇〇〇	二,〇〇〇		
其他	三〇〇把	三〇〇	三〇〇		
計	八,〇一〇	八,〇一〇	一〇,〇〇〇		
其他收入	三六五,三三〇	三六五,三三〇	三六五,三三〇		
合計	三,七〇七,九四〇	三,七〇七,九四〇	三,七〇七,九四〇		

(四) 農業支出

種目	現金	現物	計	備考
建物費	二五,〇〇	一〇,〇〇	三五,〇〇	
農具費	三三,六〇	一〇,〇〇	四三,六〇	
種苗費	三九,八二	一五,〇〇	五四,八二	
家畜費	三,〇〇	一,〇〇	四,〇〇	
飼料費	四九,五〇	一〇,〇〇	五九,五〇	
肥料費	一五九,三〇	二九七,八三	四五七,一三	
光熱動力費	八,二四	一,〇〇	九,二四	
薬剤費	一〇,六五	一,〇〇	一一,六五	
加工原料費	一	一〇,〇〇	一〇,〇〇	
雇傭勞賃	一五,二五	三,〇〇	一八,二五	
小作料	一	五三,八八	五三,八八	
諸負債	一〇,三三	一	一〇,三三	
負債利子	八,一三	一	八,一三	
其他	三,五〇	五,〇〇	八,五〇	
計	九三〇,一七〇	九三三,七一一	一,八六三,八八一	
農業收入	三,七〇七,九四〇	二,一〇九,三三〇	五,八一七,二七〇	
農業支出	一,八六三,八八一	一,六八八,六六〇	三,五五二,五四一	
差引(農業所得)	一,八四四,〇五九	一,四二〇,六七〇	三,二六四,七二九	
農業所得	三,二六四,七二九	七〇,〇九五	三,三三四,八二四	
耕田一反當	一,六六	八,九三	一〇,五九	
家族一日當	一,六六	一〇,九三	一二,五九	

志摩郡磯部村大字迫間 西岡賢太郎

私は只今御紹介になりました志摩郡磯部村の西岡賢太郎であります。私の經營状況を御話し申上げるまでに私の地方の地勢に付いて御話しますと、磯部村は四圍山をもつて圍まれた田は六百六十五町、畑二百三十五町、山林五千八十五町であります。全面積の八割は山林が占めてあるのであります。志摩郡としては平坦な所であり、戸数は一千七百七十一戸であつて、耕地も一戸當りにしますと、田六反二畝、畑二反一畝餘であります。田は一般に砂質壤土で肥沃であります。農業は米、麥、甘藷を主とする經營であります。私の經營反別は水田一町四反一畝、内裏作可能田は二反五畝、普通畑二反、桑園二反であります。

家族の従業者は兩親並に私等夫婦の四人であります。母は主として子供の養育、家事に従事して居ります。それで御断り致して置きたい事は、磯部村一般から眺めた場合は、地勢

上にも、土質に於ても可成良い方ではありますが、私の經營してゐる耕地は農業經營には極めて不利な條件の處が多いのであります。即ち田は山間部にありまして、日照時間が少くて早害を受け易く、土質は粘質土でありますから耕耘に相當多くの勞力を要します。殊に肥料の肥効率も悪く従つて收穫も少いのでありまして、普通の收穫を上げる爲には餘程の努力が必要なのであります。斯様な耕地を相手に經營をやつてゐるのでありますから經營の改善は耕地の肥沃化を第一目標として有機質肥料の施用に努めてゐます。有機質肥料は自給肥料である堆厩肥による事に致してゐます。

十四年度の水稻施肥の状況は反當堆肥三百貫、堆土二百貫金肥八圓を施用しました。其結果は從來の收量に比しまして相當の増收であつて米二石四斗の收穫を得ましたのであります。本年度は五ヶ年の増産計畫を樹て、三石を目標に努力してゐる次第であります。畑作に於ても自給肥料の施用に依り年々收穫を増加してきました。昭和十四年度は反當麥二石六斗、甘藷九百貫、豆類、蕎麥等も相當の收穫を得たのであります。それで今申し上げた様に米、麥を主とした單純な經營

組織では家族勞力の活用が不充分でありますから勞力の活用と分配を良くする爲に養蠶を織込み、經營の多角化を計つてゐるのであります。

養蠶經營の概要を申し上げます。養蠶は自給自足を主眼として經營してゐますので、勞力、桑葉は全部自給によつてゐます。養蠶成績の如何は桑園經營の良否に重大の關係が有るものと信じて、桑園には特に力を入れて研究してゐるのであつて農會の指示に従ひ用途別桑園を設置し桑葉の改善と生産の増加に努めてゐます。壯蠶用桑園は一反五畝で品種は魯桑であつて、之は春秋の壯蠶用として肥培管理を十分にしておきます。外に稚蠶専用では遠高三畝(春蠶稚蠶用)改良畝返二畝(晩秋稚蠶専用)を設置して居ります。桑園施肥の概要を申し上げます。春秋壯蠶用桑園には反當堆肥四百貫内外を十二月より二月中に冬肥として施用し、金肥は此の時には使用致しません。夏肥としては春蠶終了後草木灰二十貫、石灰十二貫、過磷酸石灰四貫、鱈骨粉二十貫、大豆粕五貫、硫酸加里五貫金額にして二十七圓程度の肥料を施してゐるのであつて、窒素質肥料を減じ加里肥料を多く施す様に努めてゐる

るのであります。加里肥料を多く施用する事は春蠶に原蠶種用の蠶を飼育して居りますので、虫の體質を強健にするため必要とするばかりでなく、桑葉の充實を計り逸作防止に備ふる目的であります。尙從來志摩郡地方の桑園は一般に密植の弊がありまして、其の結果發育の良き桑園でも晩秋期に於て下葉が黄變落葉するこゝが多く従つて收葉量も減じ葉質も軟弱變して飼料價値を著しく減じ蠶作を不良にするばかりでなく、春蠶期に於ては枝條の三分の一以下は發芽を致しませんから、最も多量の桑葉を必要とする春蠶に收葉量を減少致しますので、私は種々苦心をしましたが、幸ひ前蠶業取締所磯部支所長河合技師の指導を受けまして、植付三十年を経たる老桑園(株間二尺畦間四尺の魯桑園)を一畦置きに抜き取り(株間二尺畦間八尺)枝條も從來六、七本立のものを十本より十二本立に整理しまして、長さも七尺より八尺位に揃へて桑樹の發育に専ら意を注ぎましたのであります。其結果従前より立派な桑園となりまして、春蠶に於ては幹の根元から發芽し晩秋蠶期に下葉の黄變落葉する事なく、收葉量は實施第一年目に於ては稍減少をみましたが、二年目からは日光の

照射及風通しも良く生育が從來の栽培法に比して遙に良好でありました。従つて葉質も良くなり葉型も非常に大きくなり普通良繭一貫を生産するに桑葉は大體十五貫内外にて生産し得らるゝ様になりました。普通の場合には上繭一貫を生産するには桑葉十八貫内外を必要とします。養蠶は年二回とし春蠶は原蠶種用のものを(種繭)飼育しまして、晩秋蠶は普通繭繭用のものを飼育して居ります。特に晩秋蠶飼育に當りましては、春期に原蠶種用のものを飼育する關係で桑葉の亂採を避け收葉を六割位に止め、稚蠶専用桑園は目的以外に一切收葉をせない様にしまして、蠶作の安定と桑園の收葉能率増進を計るに共に蠶兒の強健性を保持する様に心掛けて居ります。原蠶種用は普通系繭用より三割の高値に販賣出来るのであります。今後春蠶は三十五貫、晩秋蠶は二十五貫收穫を目標に進んで居る次第であります。

次に養畜としては牛一頭を飼育し毎年犢を生産して居ります。飼料代は現金支出は僅かに十圓内外であつて、其他は麥、甘藷、米糠、藁、乾草、紫雲英等の自給飼料で飼育をしてゐる

ます。現在は本年二月初旬分娩した牝犢一頭と役牛一頭を飼育してゐます。養畜は犢の生産をなし養畜収入の増加を圖るに共に厩肥の増産に極力意を注いでゐるのであります。牛の外に鶏を常に十羽以上を飼育して、卵及廢鶏は家事仕向として卵及肉の自給を圖つてゐます。

次に現在農家の最も痛切に感じてゐることは肥料問題であつて、農産物の生産増産は肥料問題の解決如何によること云ふても過言でないと思ひます。現下の肥料不足を克服して、而して生産の増産を圖る道は自給肥料を利用するより外に取るべき手段はないと思ひます。私は前に申し上げました様に生産費の低減を圖り農業収入を増加する爲には自給肥料の使用が最も重要な事であつて自給肥料に依らなければ眞に地力の増進を圖る事は出来ないものでありますから、従来より私は自給肥料の増産及施用に専ら努力してゐる次第であります。時節柄一層之れが利用を痛切に感じてゐるのであります。それで堆肥、厩肥の増産は元より極力實行に努めて居りますが尙之れでも不足を致しますから埼玉式土壤活性土を使用して燐。燒土を作り桑園及水田に施用して居ります。

様にして數回繰返し高さ五尺幅九尺四方に積上げるのであります。土の盛上げを濟まし火口に点火して竹棒を抜きます。火は下方より藁、桑條、卷藁等に傳つて上方に及ぶのであつて燃料に十分火の付いた時に火口を塞ぎ燻の煙突を調節します。約十時間を経て黄色の煙が出る頃には土は全部温まり燃料も燃へ終り燐。燒土が出来上るのであります。燒土法は云ひますが土を黒く燒くのではなく土を温めるのであります。斯様にして一竈で七百貫の燐。燒土を得られるのであつて、燃料として用ひた桑條又は木の枝は立派な木炭になりますから、副産物として木炭を得られる譯であります。専用竈を用いなくても生丸太を使用して棧ごなし堀り上げた土を盛つて搗き固めて甕形に作つても燐。燒土を作るこゝが出来るものと思つてゐます。

以上が私の農業經營概要でありまして十四年度に於ける農業収入支出を申し上げます。水稻一千四百七十二圓、麥百七十四圓、其他雜穀蔬菜等二百圓、養蠶の現金収入六百四十七圓であつて甘藷切干、筴、薪等の収入を加へると農業總収入は二千八百九十三圓になります。之に要した農業經營費は五百

埼玉式土壤活性土を申します。此の土は土壤中の不可溶性養分を燐。燒により可溶性に變化せしめるのでありまして、特に不可溶性の燐。酸、加里成分を可溶性に變化する効果の大きな事は土壤分析により證明されてゐるのであります。最近の様に加里肥料の入手困難なる年には最も適切なる方法と思ひます。本年實施しました馬鈴薯の成績を普通畑に植えたものと燐。燒土施用畑に植えたものと比較しますれば、普通畑に於ては平均一株に付、芋が二個位附着し燐。燒土を使用せるものは平均一株に三―四個の芋が出来たのであります。總收穫高は燐。燒土を施用した畑は遙に増收でありました。此の埼玉式土壤活性土の燐。燒土製造法を申し上げます。先づ竈の大きさに準じて深さ二尺長さ三尺の穴を堀り圍りに煉瓦又は石を配置して竈を据付るので有つて、燃料としては桑條、雜木、其他燃え易い植物性のものを用ひます。かくて竈を据付けて稻藁又は麥稈を巻きたる竹棒を十數個の竈の穴に夫々挿し込み次に竈の上一面に藁を厚さ二寸位に敷き更に竈の周圍六尺四方に桑條又は木の枝を置き其上にも藁を敷き其の上へ七寸位盛土し又其上に桑條を一、二寸敷き更に藁を敷き土を盛る斯

三十六圓で差引二千三百五十八圓の所得になります。要するに私の經營は自給自足を立前として常に經營の改善に努力してゐます。經營の改善は堅實に實行し得るものを取り入れる様にせなければなりませんから年々農家經濟簿を記載致しまして記帳によつて過去の經營の不備な處を調査研究して年度の初めに經營の根本方針を樹て之を實行に移すのであります。斯様にして漸次經營改善に努め時代の推移に合致した農業を営み得る様に心掛けてゐます。

今や聖戰第四年目を迎へ四圍の狀態は益々緊迫を加へつ、ある秋でありまして、愈々國家總力を舉げあらゆる産業部門を動員して益々生産の増産を圖らねばならぬ事は申す迄もありません。吾々農民に課せられたる責務も又重且大に申さねばなりません。吾々農民は聖戰完遂の爲戰時下に合致せる様に農業經營を改善しまして使命を達成しようではありませんか。

此れで私の話を終ります。承らるの御靜聽を感謝します。

(附記 本農家へは志摩電鐵迫間驛より約三町)

農業經營調査成績

(一) 家族		(二) 經營面積		(三) 農業收入	
氏名	年齢	所有	借入	計	貸付地
西岡賢太郎	四〇	二,六〇〇	一,一〇〇	三,七〇〇	二,三〇〇
妻 長之助	三六	〇	〇	〇	〇
父 小太夫	六八	〇	〇	〇	〇
母 長之助	六八	〇	〇	〇	〇
長男 貞夫	二五	〇	〇	〇	〇
次男 康三	二二	〇	〇	〇	〇
三男 勉	一六	〇	〇	〇	〇
計		二,六〇〇	一,一〇〇	三,七〇〇	二,三〇〇
田 一毛作田		二,六〇〇	一,一〇〇	三,七〇〇	二,三〇〇
田 二毛作田		〇	〇	〇	〇
田 普通畑		〇	〇	〇	〇
田 桑園		〇	〇	〇	〇
田 畑計		二,六〇〇	一,一〇〇	三,七〇〇	二,三〇〇
山林		〇	〇	〇	〇
計		二,六〇〇	一,一〇〇	三,七〇〇	二,三〇〇

二三四

作物	反別	生産	高	備考
水稲	一三,〇〇〇	八三俵二斗	一,四七三	
大豆	二,〇〇〇	一六俵	一七三	
小麦	一,〇〇〇	一石二斗	一〇〇	
蕎麥	〇	〇	〇	
粟	〇	〇	〇	
黍	〇	〇	〇	
稷	〇	〇	〇	
高粱	〇	〇	〇	
其他	〇	〇	〇	
計				

(四) 農業支出

種目	現金	現物	計	備考
農具費	一七,八二	一三,五〇	三一,三二	
種苗費	四,七三	九,〇〇	一三,七三	
肥料費	六,五〇	〇	六,五〇	
飼料費	一三,三〇	三三,〇〇	四六,三〇	
肥料費	一九,七五	二二,三三	四二,〇八	
光熱動力費	一一,〇〇	〇	一一,〇〇	
薬剤費	一,三〇	〇	一,三〇	
雇傭勞賃	三三,八二	〇	三三,八二	
租税公課	八〇,一八	〇	八〇,一八	
計	三六五,二九	一七〇,七二	五三六,〇一	
農業收入		二,八九三,四五		
農業支出		五三六,〇一		
差引 (農業所得)		二,三三七,四四		
耕地一反當		一三〇,三三		(農業所得ヲ經營面積一町八反ニテ除シタルモノ)
家族一日當		二,七四		(農業所得ヲ家族ノ從業日數ハ四七日四分ニテ除シタルモノ)



飯南郡射和村大字庄 鈴木八左榮門

私は當年二十六歳ニ謂ふ若年者でありまして、本日皆様の前に立つて發表させて戴く價値はないのであります。縣農會の御奨めに依りまして、私が實業學校卒業以來滿八ヶ年間天職であります農業に従事して來ました體驗の一端を、只今から少し時間を戴いて發表致します。

私の村は東西には櫛田川の清流がありまして、北部には天に聳える連山をひかへ、氣候にも恵まれ又風俗も淳朴であります。一大缺點と云ひますのは耕地面積が非常に狭い事でありまして、

本村の一戸當りの耕地面積は、七反歩餘りでありまして、特に西部三ヶ字の如きは一戸當り五反歩弱ニ謂ふ非常に貧弱な經營面積であります。私はその貧弱な耕地面積を有して居ります一農家に生を享けたのであります。此の様に非常に狭い經營面積を以つて、農業經營を行つて居る關係上、私の經

營概要を發表致します事は非常に心苦しく感じますのでありますが、小經營に置きましては此の苦しみを如何にして打開するのであるか云ふ御見解で、聞いて戴きたいのであります。此の私の發表が何かの資料にでもなりますれば此の上もない幸を存じます。

農家一戸當り五反歩弱の耕地面積では、從來の農業經營法では到底生活の安定を圖る事は出来ません。如何にすれば生活の安定が圖る事が出来るか、此の点につきまして研究を致して居るのであります。

第一に一定面積より多收穫を上げることであります。

第二には今日政府が獎勵して居ります、滿洲大陸に農業移民をなすことであります。

第三に郷土を眺めまするのに、まだ、開墾可能地が多分に残されて居るのではないかと考へるのであります。此の未開地を開墾することにしまして耕地面積を増加し農産物の増産を圖る事が出来るのであります。

第四にしまして農業經營の複雑化又は多角化であります。

以上種々例擧致しましたが何れにしましても期する處は農

は神業也の精神のみに、努力奮闘することが必要であると思ふのであります。よく百姓は儲からぬ云ふことを云ひますが、これは農家が自ら研究し工夫改良する熱意に缺けて居るからであると思ひます。

次に私の經營の概要を申します。

勞力	二人八分
水田	五反七畝
果樹園	六反〇畝
桑園	三反五畝
水稻	三反八畝
伊勢薯	一反九畝
並蔬菜	一反一畝
裸麥	三反九畝
小麥	三反九畝

以上申しました様に過小農でありますので、此の經營に養鶏、養蠶を加味致しまして、家族の勞力を無駄なく利用し、そればかりではなく、臨時に相當の収入が得られること、又副産物として出来る鶏糞、糞渣云ふ今迄無かつた自給肥料をそれだけ多く生産出来ること、なるのであります。昨年

八月から肥料が配給統制になりまして、十分の配給を受けることが出来ませんからさうしても、自給肥料を主體としてその不足分を金肥を以つて補ひ、施肥の合理化を圖らねばならないのであります。

又伊勢薯を加味致しましたのは、勞力は相當要しますが、非常に高價に取引せられますので、土地の利用價値を高め特に耕地の狭い所では適地適作であると思ふのであります。今茲に水稻と伊勢薯と比較して見ますと、稲作は反當勞力は十五、六日を要しますが之が反當収入を見ました時に反當六俵の收穫で百二圓となり、肥料代、雜費を差引純益七十二圓であります。日當は四圓五十錢となり、伊勢薯は反當勞力は四十日を要しますが、之が反當収入を見ますと、五百貫を收穫し今日の市價一貫匁一圓五十錢として計算しますと、七百五十圓になり、薯代、肥料代、雜費を見積り差引純益四百五十圓であります。日當は十一圓五十錢なるのであります。

以上の諸点から眺めまして、經營面積の狭い地方では米の増産獎勵の叫ばれて居る折柄であります。稲作の置換もやむを得ないのであります。

次に果樹園を加味致しましたのも、耕地面積の狭い所から父が二十五歳の時この地方では耕地面積の擴張が最も必要な事であるに着眼して開墾をなし、土質に適する柑橘を栽培せられたのであります。私も父の意志を繼ぎまして學校卒業記念の意味で父の教を得まして、一反歩を開墾して温州蜜柑を七十五本栽植し、之を各種の研究試験田としてをりますが、今迄の經過の一端を申しますと、私が學校を卒業し射和村青年團に入團しました時に、團長より青年一人あるところ必ず一研究ありと聞かされまして、感激の眼を光らせた私は、之を動機として柑橘の貯藏法の研究を始めたのであります。此の柑橘の貯藏法の研究を選んだ理由は

- 一、私の村は經營面積が狭く其の上に米麥作に制限されて居ること。
- 二、私の家の所得の大半を柑橘が占めてゐること。
- 三、一般柑橘栽培者の間に貯藏法の研究が充分でないこと。

此の三点に着眼致しました私は當時十九歳でありました。昭和八年度を初年度と致しまして、五ヶ年計畫を以つて試験をしたのであります。或時は大失敗をして折角實つた蜜柑

を無價値なものとなり、又或時には僅かながらも成功を見て
將來の研究に一路の光明を見出した事もありまして、全くそ
の五ヶ年間は悲喜交々の歴史を繰返して参つたのであります
斯くしまして今日では其の年の六月迄は完全に貯藏の出来る
確信を持つことが出来まして、私の研究に一段落をつけるこ
とが出来たのであります。

私の研究は柑橘の貯藏の方法が腐敗に如何なる關係を及ぼ
すか云ふのであります。之には専用貯藏庫を設備すれば
申分ないのであります。それには多額の經費を必要とする
關係上、副業的栽培者には不適當であること、考へ此の欠点を
補ふ爲に研究を重ねた結果、冬期無用の長物である養蠶室を
利用することにより、専用貯藏庫に優ることも劣らない簡易貯
藏庫を造る事に成功したのであります。

私の此の貯藏庫は設備の至極簡易なのを特長と致して居る
のであります。要するに貯藏庫は横風の入らない様にすること、
其の一室に收容する量の多少、唯それだけに注意すれば
よいのであります。私の試験の結果は四坪に對し六百貫前後
の果實を收容すれば腐敗率を最少限度に止めることが出来る

のであります。

昭和十三年には大日本青年團創作品展覽會に出品しまして
特選賞を受け助成金の交付を受ける光榮に浴したのでありま
す。

此の様にして私の研究の結果は、同業者に非常に喜ばれて
居るのであります。

以上は私の柑橘栽培に於きます研究の一端を發表したに過
ぎないのであります。今後共農閑期を利用して汗と油の結
晶によりまして、不耗の地も美田と化する決意を固めて居る
のであります。

次に肥料問題であります。肥料の不足にも不拘農産物の
増産がやかましく叫ばれて居ります折柄、往々にして如何に
政府が國策であることは云へこんな無理な注文はないこと、處々
に不平の言葉を聞くのであります。これは時局の認識不足
も甚だしいと思ふのであります。あの異郷の地で彈丸雨飛の
中で命を的に皇國の爲、奮闘して居つて下さる將兵の事を思
へば、銃後にあるものは如何なる困苦、缺乏に耐へ得られる
のであります。又此の増産も他人のこの様に考へて居らず

に、之れ皆結局は自分の爲であるのでありますから、不平さ
ころが大いに喜ばなければならぬのであります。又

假りに肥料が澤山ありまして、増産をするのでは何にも戦時
ではなくて平時であります。あらゆる物資の不足に打勝つて
増産せなければならぬ處に、非常時の非常時たる所謂があ
るのではありませんか。

此の肥料の不足を補ふには、自給肥料の増産によるより道
はないのであります。私は此の意味からして三百羽の鶏の飼
育に努力致して居ります。私は一町六反七畝の經營で昭和十
四年度に於きまして、肥料代としての支出は三百十六圓六十
錢でありました。此の肥料代は多額であります。私の經營
の約半數は不耗の地で、果樹栽培を行つて居る關係上想像以
上に肥料代を多く必要とするのであります。これで金肥を最
低に切下けて居るのではありません。まだ、私の努力が足
りないのであります。本年度は半減を目標に努力して居る
のであります。然し私の經營も二人八分の勞働力を以つて購
入肥料代の半減は容易な事ではありません。

次に桑園に於きましては開作として全部綠肥を栽培して、

不足分は鶏糞又は蘇粕を施用致します。

麥作に於きましては反當鶏糞六十貫に草木灰十貫を施用し
追肥として人糞尿を一回施用することに依りまして、多收穫
を得る自信を持つて居ります。私の地方は麥作平均反當六俵
内外の收穫であります。私は昨年反當平均九俵二斗の收穫
を上けることが出来ました。之皆自給肥料の御蔭であること喜
んで居ります。

本年は縣農事試験場の命によりまして、肥料試験を致して
居りますが、之も未だ十分の成績を得て居りませんので發表
することは、出来兼ねますが必ず自給肥料施用區に於きまし
ては、他の追従を許さないものと確信致して居ります。

肥料試験田の内容を申します(反當)

- 第一區堆肥(三〇貫) 配合肥料 八貫四〇匁
 - 第二區堆肥(三〇貫) 配合肥料 四貫四〇匁
 - 第三區堆肥(三〇貫) 配合肥料 九貫六匁
 - 第四區堆肥(三〇貫) 鶏糞(六貫) 過石(三貫) 硫酸七貫
- 次に果樹園も全部鶏糞主体として反當鶏糞百貫、硫酸十貫
草木灰三十貫以上の肥料配合で完全な栽培をして居るのであ

ります。各市場に出荷致しまして、鯨粕で栽培したものである。こ謂はれる様な立派な成績を挙げて居ります。以上一、二の例に申しましたに過ぎませんが、鶏糞の肥料価格は大きなもので、肥料成分率から申しましても鯨粕の四分の一、大豆粕の三分の一の価格は十分にあると信ずるのであります。

皆さんさうか経営に家畜を加味して肥料不足を解消して下さい。昭和十三年十二月以降鶏卵一貫匁三圓十五錢内外に對して、飼料はさく／＼高くなつて來ました今日では、到底養鶏それ自身では利益を得る事は考へられません。然し飼料の肥料化云ふ意味から十分価値のあるものと思ふのであります。

次に昨年度の実績を申し上げます。次の通りであります
農業収入

稲作	四三圓
麥作	四〇圓
伊勢薯	一、四五圓
養蠶	一、〇六圓(現金収入)
柑橘	一、二〇圓

養畜は鶏三百羽を飼育して、卵及廢鶏の賣上収入は一千七百四十圓、外に糞渣七百貫、鶏糞二千貫、刈草五百貫、堆肥二千貫を生産して居ります。
此等現物を現金に換算しますと、農業總収入は六千六百七十四圓になります。農業經營に要しました経費は二千七百九十二圓でありまして、差引農業所得は三千八百八十二圓になります。之を働く者一人當に換算致しますと一千二百七十四圓になります。又此の經營に要しました労働日数は、六百三十四日でありまして、一日當に換算しますと、六圓三錢の日常となるのであります。

以上の如き成績を挙げる事が出來ました。

私の常に考へて居りますことは、自分の職業は祖先から授けられた神業であつて、尊い仕事である云ふ信念のみに如何なる苦痛にも耐へて努力する事により始めて成功が見られ、又樂しき農家經營が出来るのであると思ふのである。

昭和十五年度は私の如き者が、中部日本農村革新聯盟より模範農家として選定せられました爲に、益々馬力を掛けて努力して居るのであります。

(附記) 本農家へは松阪電鐵庄驛下車)

農業經營調査成績

(一) 家族	
經營主	鈴木 名 年齢 労働 備考
妻	鈴木 名 年齢 労働 備考
長男	鈴木 名 年齢 労働 備考
次男	鈴木 名 年齢 労働 備考
三男	鈴木 名 年齢 労働 備考
四男	鈴木 名 年齢 労働 備考
五男	鈴木 名 年齢 労働 備考
六男	鈴木 名 年齢 労働 備考
七男	鈴木 名 年齢 労働 備考
八男	鈴木 名 年齢 労働 備考
九男	鈴木 名 年齢 労働 備考
十男	鈴木 名 年齢 労働 備考
十一男	鈴木 名 年齢 労働 備考
十二男	鈴木 名 年齢 労働 備考
十三男	鈴木 名 年齢 労働 備考
十四男	鈴木 名 年齢 労働 備考
十五男	鈴木 名 年齢 労働 備考
十六男	鈴木 名 年齢 労働 備考
十七男	鈴木 名 年齢 労働 備考
十八男	鈴木 名 年齢 労働 備考
十九男	鈴木 名 年齢 労働 備考
二十男	鈴木 名 年齢 労働 備考
二十一男	鈴木 名 年齢 労働 備考
二十二男	鈴木 名 年齢 労働 備考
二十三男	鈴木 名 年齢 労働 備考
二十四男	鈴木 名 年齢 労働 備考
二十五男	鈴木 名 年齢 労働 備考
二十六男	鈴木 名 年齢 労働 備考
二十七男	鈴木 名 年齢 労働 備考
二十八男	鈴木 名 年齢 労働 備考
二十九男	鈴木 名 年齢 労働 備考
三十男	鈴木 名 年齢 労働 備考
三十一男	鈴木 名 年齢 労働 備考
三十二男	鈴木 名 年齢 労働 備考
三十三男	鈴木 名 年齢 労働 備考
三十四男	鈴木 名 年齢 労働 備考
三十五男	鈴木 名 年齢 労働 備考
三十六男	鈴木 名 年齢 労働 備考
三十七男	鈴木 名 年齢 労働 備考
三十八男	鈴木 名 年齢 労働 備考
三十九男	鈴木 名 年齢 労働 備考
四十男	鈴木 名 年齢 労働 備考
四十一男	鈴木 名 年齢 労働 備考
四十二男	鈴木 名 年齢 労働 備考
四十三男	鈴木 名 年齢 労働 備考
四十四男	鈴木 名 年齢 労働 備考
四十五男	鈴木 名 年齢 労働 備考
四十六男	鈴木 名 年齢 労働 備考
四十七男	鈴木 名 年齢 労働 備考
四十八男	鈴木 名 年齢 労働 備考
四十九男	鈴木 名 年齢 労働 備考
五十男	鈴木 名 年齢 労働 備考
五十一男	鈴木 名 年齢 労働 備考
五十二男	鈴木 名 年齢 労働 備考
五十三男	鈴木 名 年齢 労働 備考
五十四男	鈴木 名 年齢 労働 備考
五十五男	鈴木 名 年齢 労働 備考
五十六男	鈴木 名 年齢 労働 備考
五十七男	鈴木 名 年齢 労働 備考
五十八男	鈴木 名 年齢 労働 備考
五十九男	鈴木 名 年齢 労働 備考
六十男	鈴木 名 年齢 労働 備考
六十一男	鈴木 名 年齢 労働 備考
六十二男	鈴木 名 年齢 労働 備考
六十三男	鈴木 名 年齢 労働 備考
六十四男	鈴木 名 年齢 労働 備考
六十五男	鈴木 名 年齢 労働 備考
六十六男	鈴木 名 年齢 労働 備考
六十七男	鈴木 名 年齢 労働 備考
六十八男	鈴木 名 年齢 労働 備考
六十九男	鈴木 名 年齢 労働 備考
七十男	鈴木 名 年齢 労働 備考
七十一男	鈴木 名 年齢 労働 備考
七十二男	鈴木 名 年齢 労働 備考
七十三男	鈴木 名 年齢 労働 備考
七十四男	鈴木 名 年齢 労働 備考
七十五男	鈴木 名 年齢 労働 備考
七十六男	鈴木 名 年齢 労働 備考
七十七男	鈴木 名 年齢 労働 備考
七十八男	鈴木 名 年齢 労働 備考
七十九男	鈴木 名 年齢 労働 備考
八十男	鈴木 名 年齢 労働 備考
八十一男	鈴木 名 年齢 労働 備考
八十二男	鈴木 名 年齢 労働 備考
八十三男	鈴木 名 年齢 労働 備考
八十四男	鈴木 名 年齢 労働 備考
八十五男	鈴木 名 年齢 労働 備考
八十六男	鈴木 名 年齢 労働 備考
八十七男	鈴木 名 年齢 労働 備考
八十八男	鈴木 名 年齢 労働 備考
八十九男	鈴木 名 年齢 労働 備考
九十男	鈴木 名 年齢 労働 備考
九十一男	鈴木 名 年齢 労働 備考
九十二男	鈴木 名 年齢 労働 備考
九十三男	鈴木 名 年齢 労働 備考
九十四男	鈴木 名 年齢 労働 備考
九十五男	鈴木 名 年齢 労働 備考
九十六男	鈴木 名 年齢 労働 備考
九十七男	鈴木 名 年齢 労働 備考
九十八男	鈴木 名 年齢 労働 備考
九十九男	鈴木 名 年齢 労働 備考
百男	鈴木 名 年齢 労働 備考
百一男	鈴木 名 年齢 労働 備考
百二男	鈴木 名 年齢 労働 備考
百三男	鈴木 名 年齢 労働 備考
百四男	鈴木 名 年齢 労働 備考
百五男	鈴木 名 年齢 労働 備考
百六男	鈴木 名 年齢 労働 備考
百七男	鈴木 名 年齢 労働 備考
百八男	鈴木 名 年齢 労働 備考
百九男	鈴木 名 年齢 労働 備考
二百男	鈴木 名 年齢 労働 備考
二百一男	鈴木 名 年齢 労働 備考
二百二男	鈴木 名 年齢 労働 備考
二百三男	鈴木 名 年齢 労働 備考
二百四男	鈴木 名 年齢 労働 備考
二百五男	鈴木 名 年齢 労働 備考
二百六男	鈴木 名 年齢 労働 備考
二百七男	鈴木 名 年齢 労働 備考
二百八男	鈴木 名 年齢 労働 備考
二百九男	鈴木 名 年齢 労働 備考
三百男	鈴木 名 年齢 労働 備考
三百一男	鈴木 名 年齢 労働 備考
三百二男	鈴木 名 年齢 労働 備考
三百三男	鈴木 名 年齢 労働 備考
三百四男	鈴木 名 年齢 労働 備考
三百五男	鈴木 名 年齢 労働 備考
三百六男	鈴木 名 年齢 労働 備考
三百七男	鈴木 名 年齢 労働 備考
三百八男	鈴木 名 年齢 労働 備考
三百九男	鈴木 名 年齢 労働 備考
四百男	鈴木 名 年齢 労働 備考
四百一男	鈴木 名 年齢 労働 備考
四百二男	鈴木 名 年齢 労働 備考
四百三男	鈴木 名 年齢 労働 備考
四百四男	鈴木 名 年齢 労働 備考
四百五男	鈴木 名 年齢 労働 備考
四百六男	鈴木 名 年齢 労働 備考
四百七男	鈴木 名 年齢 労働 備考
四百八男	鈴木 名 年齢 労働 備考
四百九男	鈴木 名 年齢 労働 備考
五百男	鈴木 名 年齢 労働 備考
五百一男	鈴木 名 年齢 労働 備考
五百二男	鈴木 名 年齢 労働 備考
五百三男	鈴木 名 年齢 労働 備考
五百四男	鈴木 名 年齢 労働 備考
五百五男	鈴木 名 年齢 労働 備考
五百六男	鈴木 名 年齢 労働 備考
五百七男	鈴木 名 年齢 労働 備考
五百八男	鈴木 名 年齢 労働 備考
五百九男	鈴木 名 年齢 労働 備考
六百男	鈴木 名 年齢 労働 備考
六百一男	鈴木 名 年齢 労働 備考
六百二男	鈴木 名 年齢 労働 備考
六百三男	鈴木 名 年齢 労働 備考
六百四男	鈴木 名 年齢 労働 備考
六百五男	鈴木 名 年齢 労働 備考
六百六男	鈴木 名 年齢 労働 備考
六百七男	鈴木 名 年齢 労働 備考
六百八男	鈴木 名 年齢 労働 備考
六百九男	鈴木 名 年齢 労働 備考
七百男	鈴木 名 年齢 労働 備考
七百一男	鈴木 名 年齢 労働 備考
七百二男	鈴木 名 年齢 労働 備考
七百三男	鈴木 名 年齢 労働 備考
七百四男	鈴木 名 年齢 労働 備考
七百五男	鈴木 名 年齢 労働 備考
七百六男	鈴木 名 年齢 労働 備考
七百七男	鈴木 名 年齢 労働 備考
七百八男	鈴木 名 年齢 労働 備考
七百九男	鈴木 名 年齢 労働 備考
八百男	鈴木 名 年齢 労働 備考
八百一男	鈴木 名 年齢 労働 備考
八百二男	鈴木 名 年齢 労働 備考
八百三男	鈴木 名 年齢 労働 備考
八百四男	鈴木 名 年齢 労働 備考
八百五男	鈴木 名 年齢 労働 備考
八百六男	鈴木 名 年齢 労働 備考
八百七男	鈴木 名 年齢 労働 備考
八百八男	鈴木 名 年齢 労働 備考
八百九男	鈴木 名 年齢 労働 備考
九百男	鈴木 名 年齢 労働 備考
九百一男	鈴木 名 年齢 労働 備考
九百二男	鈴木 名 年齢 労働 備考
九百三男	鈴木 名 年齢 労働 備考
九百四男	鈴木 名 年齢 労働 備考
九百五男	鈴木 名 年齢 労働 備考
九百六男	鈴木 名 年齢 労働 備考
九百七男	鈴木 名 年齢 労働 備考
九百八男	鈴木 名 年齢 労働 備考
九百九男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千一男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千二男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千三男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千四男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千五男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千六男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千七男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千八男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千九男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千十男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千十一男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千十二男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千十三男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千十四男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千十五男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千十六男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千十七男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千十八男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千十九男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千二十男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千二十一男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千二十二男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千二十三男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千二十四男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千二十五男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千二十六男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千二十七男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千二十八男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千二十九男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千三十男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千三十一男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千三十二男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千三十三男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千三十四男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千三十五男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千三十六男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千三十七男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千三十八男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千三十九男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千四十男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千四十一男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千四十二男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千四十三男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千四十四男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千四十五男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千四十六男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千四十七男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千四十八男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千四十九男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千五十男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千五十一男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千五十二男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千五十三男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千五十四男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千五十五男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千五十六男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千五十七男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千五十八男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千五十九男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千六十男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千六十一男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千六十二男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千六十三男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千六十四男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千六十五男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千六十六男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千六十七男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千六十八男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千六十九男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千七十男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千七十一男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千七十二男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千七十三男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千七十四男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千七十五男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千七十六男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千七十七男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千七十八男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千七十九男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千八十男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千八十一男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千八十二男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千八十三男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千八十四男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千八十五男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千八十六男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千八十七男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千八十八男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千八十九男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千九十男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千九十一男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千九十二男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千九十三男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千九十四男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千九十五男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千九十六男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千九十七男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千九十八男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千九十九男	鈴木 名 年齢 労働 備考
千百男	鈴木 名 年齢 労働 備考

(二) 經營面積	
所有	借入
田一毛作田	田一毛作田
田二毛作田	田二毛作田
田三毛作田	田三毛作田
田四毛作田	田四毛作田
田五毛作田	田五毛作田
田六毛作田	田六毛作田
田七毛作田	田七毛作田
田八毛作田	田八毛作田
田九毛作田	田九毛作田
田十毛作田	田十毛作田
田十一毛作田	田十一毛作田
田十二毛作田	田十二毛作田
田十三毛作田	田十三毛作田
田十四毛作田	田十四毛作田
田十五毛作田	田十五毛作田
田十六毛作田	田十六毛作田
田十七毛作田	田十七毛作田
田十八毛作田	田十八毛作田
田十九毛作田	田十九毛作田
田二十毛作田	田二十毛作田
田二十一毛作田	田二十一毛作田
田二十二毛作田	田二十二毛作田
田二十三毛作田	田二十三毛作田
田二十四毛作田	田二十四毛作田
田二十五毛作田	田二十五毛作田
田二十六毛作田	田二十六毛作田
田二十七毛作田	田二十七毛作田
田二十八毛作田	田二十八毛作田
田二十九毛作田	田二十九毛作田
田三十毛作田	田三十毛作田
田三十一毛作田	田三十一毛作田
田三十二毛作田	田三十二毛作田
田三十三毛作田	田三十三毛作田
田三十四毛作田	田三十四毛作田
田三十五毛作田	田三十五毛作田
田三十六毛作田	田三十六毛作田
田三十七毛作田	田三十七毛作田
田三十八毛作田	田三十八毛作田
田三十九毛作田	田三十九毛作田
田四十毛作田	田四十毛作田
田四十一毛作田	田四十一毛作田
田四十二毛作田	田四十二毛作田
田四十三毛作田	田四十三毛作田
田四十四毛作田	田四十四毛作田
田四十五毛作田	田四十五毛作田
田四十六毛作田	田四十六毛作田
田四十七毛作田	田四十七毛作田
田四十八毛作田	田四十八毛作田
田四十九毛作田	田四十九毛作田
田五十毛作田	田五十毛作田
田五十一毛作田	田五十一毛作田
田五十二毛作田	田五十二毛作田
田五十三毛作田	田五十三毛作田
田五十四毛作田	田五十四毛作田
田五十五毛作田	田五十五毛作田
田五十六毛作田	田五十六毛作田
田五十七毛作田	田五十七毛作田
田五十八毛作田	田五十八毛作田
田五十九毛作田	田五十九毛作田
田六十毛作田	田六十毛作田
田六十一毛作田	田六十一毛作田
田六十二毛作田	田六十二毛作田
田六十三毛作田	田六十三毛作田
田六十四毛作田	田六十四毛作田
田六十五毛作田	田六十五毛作田
田六十六毛作田	田六十六毛作田
田六十七毛作田	田六十七毛作田
田六十八毛作田	田六十八毛作田
田六十九毛作田	田六十九毛作田
田七十毛作田	田七十毛作田
田七十一毛作田	田七十一毛作田
田七十二毛作田	田七十二毛作田
田七十三毛作田	田七十三毛作田
田七十四毛作田	田七十四毛作田
田七十五毛作田	田七十五毛作田
田七十六毛作田	田七十六毛作田
田七十七毛作田	田七十七毛作田
田七十八毛作田	田七十八毛作田
田七十九毛作田	田七十九毛作田
田八十毛作田	田八十毛作田
田八十一毛作田	田八十一毛作田
田八十二毛作田	田八十二毛作田
田八十三毛作田	田八十三毛作田
田八十四毛作田	田八十四毛作田
田八十五毛作田	田八十五毛作田
田八十六毛作田	田八十六毛作田
田八十七毛作田	田八十七毛作田
田八十八毛作田	田八十八毛作田
田八十九毛作田	田八十九毛作田
田九十毛作田	田九十毛作田
田九十一毛作田	田九十一毛作田
田九十二毛作田	田九十二毛作田
田九十三毛作田	田九十三毛作田
田九十四毛作田	田九十四毛作田
田九十五毛作田	田九十五毛作田
田九十六毛作田	田九十六毛作田
田九十七毛作田	田九十七毛作田
田九十八毛作田	田九十八毛作田
田九十九毛作田	田九十九毛作田
田百毛作田	田百毛作田
田百一毛作田	田百一毛作田
田百二毛作田	田百二毛作田
田百三毛作田	田百三毛作田
田百四毛作田	田百四毛作田
田百五毛作田	田百五毛作田
田百六毛作田	田百六毛作田
田百七毛作田	田百七毛作田
田百八毛作田	田百八毛作田
田百九毛作田	田百九毛作田
田百十毛作田	田百十毛作田
田百十一毛作田	田百十一毛作田
田百十二毛作田	田百十二毛作田
田百十三毛作田	田百十三毛作田
田百十四毛作田	田百十四毛作田
田百十五毛作田	田百十五毛作田
田百十六毛作田	田百十六毛作田
田百十七毛作田	田百十七毛作田

蠶種費	27.00	27.00	
家畜費	100.00	100.00	鶏3羽買入
飼料費	1,450.00	1,450.00	
肥料費	316.60	592.00	
藥劑費	100.00	100.00	
光熱費	350.00	350.00	
雇傭勞賃	650.00	650.00	
畜力費	400.00	400.00	
諸負擔	110.00	110.00	
其他	—	82.00	
計	2,500.00	2,712.00	
農業收入	6,240.00	6,240.00	
農業支出	2,712.00	2,712.00	
差引 (農業所得)	3,528.00	3,528.00	
耕地一反當	352.80	352.80	(農業所得ヲ經營面積一町五反ニ以テ除シタルモノ)
家族一日當	6.03	6.03	(農業所得ヲ家族ノ從業日數ニテ除シタルモノ)

農家の生活費 (三重縣農會調査)

種目	十二年度	十三年度	十四年度
住居費	23.50	26.90	27.80
飯食費	35.90	37.10	39.40
光熱費	39.90	39.90	41.10
被服費	5.70	4.10	6.00
家具什器費	10.30	19.70	20.60
教育費	4.30	4.70	8.10
修養費	7.60	7.30	5.30
交際費	49.50	73.00	65.70
嗜好費	47.70	33.30	33.00
娛樂費	7.30	3.70	3.90
衛生費	17.90	17.50	15.40
冠婚葬祭費	3.30	7.00	18.80
諸負擔	14.00	13.30	15.40
利子	5.70	3.10	3.40
其他	33.30	31.00	31.40
計	659.00	640.30	736.30

經濟調査農家九戸(自作三戸、自小作三戸、小作三戸、家族員數一戸ニ付五人五分)につき生活費を調査し平均したものであつて米、麥、蔬菜等の自給品も見積り加算す。

六、渡邊審査長講評の要旨

今回選抜農家經營發表大會に審査長として臨席し、津、四日市、此處に連續參列して非常な景氣を見、非常なハリキリ方で發表する多數の體験談を聴き、又つばきを呑み、汗を握つて聴く諸君に接して嬉しさに堪へないのであります。篤農家の懇談會は各地でよく催されるが今回の大に趣を異にし同好の上が集つて一緒に聴く、投票までやる、いろ／＼の方面まで好結果を及ぼし政治演説や場當りの話とは違ふ、實際に歩んだ足跡を語るのである、十三人の中には話の上手な人もあれば下手な人もある、併し歩んだ事以外には出られず、事實を物語つたのである。

此の一枚刷は極めて簡單ではあるが、精練してエキスにされたものである。之を見れば北勢の或は南勢の農業規模、組織が一目瞭然する、農業をやるにも今日は分析的に見なければならぬ、農業者は生活費は何處から出るか、それは農業所得から出る、農業所得は總收入から支出を引いた残りである。之に依つて納屋を建てることも出来れば子供をかたづけける事も出来る、又一年の一日の一人の勞働報酬がいくらになつてゐるか云ふ様な事も此の印刷物をよく見られたなればすぐわかるのである、だから今回の事業は百二十点位の点を付けてもよいと思ふのである。

日本の農業は其の規模極めて小さく今日の發表者は一町乃至二町を耕作してゐるが全國から見れば之れは中農以上である。全國では五百六十萬戸の内一町歩未満の五反百姓、八反百姓が六割九分を占めてゐるのである。資本も尠く機械なごも小仕掛で努力だけでは豊富である。だから努力の運用が經營の上手下手になる農業の要素は外國と變りはないが、日本の状態ごまるきり反對である。イギリスのロンドン郊外にはロバートホップといふ小作農で一千エーカー即ち四百町歩も作つてゐる百姓がある。日曜日に訪問したが立派な洋館に住み、主人はモーニング、妻君や娘は立派なドレスを着て紳士淑女の風體、樂天生活をしてゐるのを見た。米國のカリホルニヤ州のサンタマリアの平原では日本人が野菜作りをして成功して居るものが多いが、

和歌山縣出身で南彌右衛門氏はサラタにするレッタス即ちチシャを五千エーカー即ち二千町歩から作つてゐる。其の他荒谷氏は三千エーカー、友岡氏は一千エーカーの農場を有してゐる。チシャは一畝位作るにも容易ならざる作物である。それを大農法によつて、二千町歩から作つてゐるのである。シベリヤは勞農ロシアになつてからコルホーズ集團農場、ソツホーズ集團農場の二種の農場を設けてゐるが、汽車の窓からよく見えるが、國營農場の一つで二萬町歩からあるものもある。バインダーといふ刈取りから束ねるころまでやるといふ様な機械を使つてゐる。外國では金と地面とが澤山あるから米國のテキサス州では米を作るのに飛行機で種子を播くといふ様な状態である。

さて我國でも急にやかましくなつた農業經營も昔は米作りの名人、繭作りの名人を篤農家と言つてゐたが、今日はそんな一本調子の人では立てぬ、我が家の農業經營をさうして立て、行くかといふ人でなければならぬ。農業經營は土地、資本勢力を適當に組合せて、うまく運用すること、之に關する學問は以前からあつたが、大正十三年から系統農會が之を指導する体系を作つた。

本日までの發表を聞いて、いろんな点に於て感じたが、其の上なるものを舉げて見る。

(一) 發表者は農業經營は單に自分の家の爲のみならず、國家的見地からやらねばならぬことを叫んだ、横井博士は「商工は國を富まし農業は國を守るの業である」と言はれたが、實に其の通り、農業は國を守るの業である、況んや此の戦時下に於ては軍需品の生産さしても自由經營は許されぬのであつて、國家の見地を我が家の經營に織り交ぜなければならぬのである。

(二) 經營改善をハッキリ帳簿につけてそれを基にして次の計畫を樹てやりつばなしでないことは殆ど共通で最も喜ばしい事である。

(三) 土を愛し深耕或は養分ある土を田か畑に入れる方法にて土を作り地力を増進することも強く叫ばれて嬉しく感じた。

(四) 發表者は皆農業に對する確乎たる信念を養成してゐる農でなければならぬ。天から與へられた職業である。之によつ

て家を建て國を守る、若い人もゐるのに、農によつて立つて云ふ不拔の職業信念をもつてゐる。フツ／＼した時勢に於て誠に頼むしいものである。

(五) 努力の切り廻しをさうすれば雇はずに、或は最少の傭人で能率を上げることが出来るかといふことが着眼せられてゐることも我が意を得てゐる。

(六) 肥料經濟は厩肥、堆肥、綠肥等の自給肥料に依ることを強調し、特に「家畜なければ農業なし」を力強く叫ばれて家畜の力、鶏の力により肥料を得ることに重きを置いてゐる、家畜には生産物の利用と肥料を第一的とするこの二方面である。後者は生産物が安くとも平氣である。畜産の盛んなる縣は澤山あるが飼料がなくて弱つてゐる。愛知縣の養鶏の如きも其の一例で、年々雞を縣外に移出してゐるが最近では飼料不足に禍されて一割五分位しか移出して居らぬといふことを聞いた、本縣の畜産は牛肉で覺えてゐる、牛鍋は世界的の料理である。歐米にも日本料理はあるが、大抵さびれて居り、支那料理は繁昌してゐる、併し牛鍋とスキヤキだけは歓迎されてゐる、英國から、米國に渡る時に船の中で日本人の夕を催し日本料理としてテンプラ・スキヤキを出して呉れたが、日本人は非常に喜んだ、伊勢松阪の牛肉は私もよく記憶して居て時に魅惑を感じさせられる、三日間の發表で肥料は自給でいふことが誰しも叫ばれたのが力強く喜しく感じました。農村對策部を陳情攻めするより遙かに賢明な策である。昨日宇佐美副會長は「食ひもの、作ふものには食ひもの、準備をせねばならぬ養蠶には誰しも桑園を準備するが家畜の方は購入主義で来た、これも自給の飼料に困らぬ様にせねばならぬ」と話された、平凡な事ではあるが大いに考へねばならぬことである、家畜の使用日数につき太田與三五郎君は百二十八日と言つたが之れは餘程多い様に思ふが、役畜には働かせる日数を考へる必要がある。役畜の使用は全國平均は五十日内外であつて、大きな體のものを年中の大部分を遊ばせてゐる、人は多く働く人は三百六十日も働いてゐるからまるで馬か牛の代りに人間が働いてゐる様なものである。

(七) 農家組合との連繫、共同作業の必要を認めてゐることは結構なことである、小農が資本家に負けない様にするには

共同體を作るより他に方法がなく、之を連絡をこつてうまくやらねば眞の經營は出來ないのである。
 こまかいことは他に澤山あるが時間の都合もあり略して置く。
 新支那建設も日にく成りつ、あるやうであるが、たゞひ平和になつても自由經濟は許されず統制經濟は繼續し且生産を統
 制され、茲數年間はもつゝ資材其の他が窮屈になるかも知れない、此の上にも最善の努力をお願いする。
 系統農會の息のか、つた八千人の粒選りの中から更に選ばれた三十六名の諸君の發表を聴く爲に二千數百人集つた力強い人
 である、併し私は地面に足のついた八千人の諸君に呼びかけたい、ヒットラーは常に「一億のゲルマン民族」を呼びかけてゐ
 るが獨逸には六千萬人しか居らぬ、四千萬人は外國に居るのであるが、常に彼は呼びかけてゐる。此の意氣あつてオースタリ
 ーもチエコスロバキヤも無血を以て併合したのだ、八千人の經營研究會員諸君が今回の發表大會を契機として一層農業經營の
 改善に精進せられ、農業者としての大使命を完遂せられんことを望んで私の話を終る。

附 投票當籤者住所氏名

津市會場之部

五圓貯蓄債券授與者 (五名)

- 津市大字小森
- 安濃郡安東村大字北河路
- 河藝郡箕田村農會
- 名賀郡花垣村大字大瀧
- 一志郡久居町大字小戸木
- 商品代金壹圓授與者 (五十名)
- 一志郡中原村大字黒野
- 安濃郡安東村大字瀧見
- 一志郡中原村大字田村
- 同 郡高岡村大字日置
- 安濃郡安濃村大字内多
- 一志郡高岡村大字高野
- 河藝郡豊津村
- 一志郡久居町大字野村

- 前川 正一
- 松田 忠夫
- 眞弓 忠夫
- 烏永 竹藏
- 松下 末男
- 水谷 政助
- 千羽 覺男
- 岡田 一男
- 奥田 恒之輔
- 北角 三雄
- 北林 三郎
- 西口 政七
- 別所 力雄

- 河藝郡椋本村大字中町
- 安濃郡安東村大字瀧見
- 安濃郡安濃村大字内多
- 河藝郡一身田町大字平野
- 安濃郡櫛形村大字産品
- 河藝郡河曲村大字須賀
- 安濃郡村主村大字川西
- 名賀郡薦原村大字薦生
- 安濃郡安東村大字瀧見
- 名賀郡美濃波多村大字中村
- 同 郡花垣村大字治田
- 一志郡雲田村大字伊倉津
- 安濃郡草生村大字中川
- 河藝郡河曲村大字野邊
- 名賀郡花垣村桂
- 一志郡高岡村高野
- 津市 藤方

- 紀太 藤松
- 竹伸 孟生
- 若林 健兒
- 古川 織之助
- 水谷 與左工門
- 村田 兵太郎
- 丸山 與十郎
- 中森 清五郎
- 中村 二男三郎
- 豊永 正一
- 井上文 太郎
- 山中 惣十郎
- 前田 親次
- 前川 宗治郎
- 川崎 清隆
- 山崎 辰三
- 今田 榮助

河藝郡河曲村大字須賀
津市 小 森
一志郡久居町
同 郡久居町大字本村
同 郡高岡村大字高野
津市 小 森
安濃郡草生村大字草生
同 郡安東村大字納所
一志郡雲出村大字長常
安濃郡明合村東觀音寺
一志郡阿坂村大字小阿坂
河藝郡河曲村大字竹野
同 郡神戶町
一志郡天白村大字曾原
安濃郡辰水村大字家所
同 郡同 村
名賀郡花垣村大字白樫
同 郡同 村
同 郡比奈知村

松井新九郎
奥山清市
山路清一
山野廣吉
稻垣才之丞
奥山善九郎
紀平甚内
井田弘
川口作太郎
村田新五郎
藤田進
前川專太郎
伊藤忠次郎
西出芳雄
新正典
高岡勇次郎
米澤金松
北森喜郎
松本季平

四日市々會場之部

五國貯蓄債券授與者 (五名)

同 郡藤原村大字八幡
河藝郡箕田村
同 郡一身田町豊野谷
安濃郡櫛形村大字分部
名賀郡名張町大字北出
一志郡天白村大字曾原

奥田 齋
古田 忠夫
森川 庄藏
上杉 惣太郎
宮崎 米太郎
森田 龜之助
石田 竹千代
藤井 衆吉
藤田 増一
北川 勝
伊藤 國松
櫻井 彦太郎
水野 貞
齋木 善一
櫻井 房

商品代金堂園授與者 (五十名)

三重郡富田町大字茂福
鈴鹿郡深伊澤村大字伊船
三重郡常磐村大字芝田
同 郡富田町大字茂福

櫻井 彦太郎
水野 貞
齋木 善一
櫻井 房

鈴鹿郡川崎村大字川崎
三重郡羽津村大字吉澤
同 郡河原田村河原田
同 郡小山田村大字小山
同 郡 楠 町
同 郡小山田村大字小山
同 郡同 村大字山田
同 郡同 村
同 郡四郷村八王寺
同 郡富田町大字茂福
同 郡菰野町大字宿野
四日市市濱田町
桑名郡城南村小貝須
三重郡小山田村大字小山
桑名郡伊曾島村福吉
鈴鹿郡高津瀬村廣瀬
三重郡鷯川原村大強原
三重郡河原田村河原田
鈴鹿郡神邊村大字小野

宮川 權次郎
山本 千太郎
長谷川 新太郎
北尾 正次
石川 半七
萩原 隆治
戸田 雄次
福岡 兵吾
黒田 見八
金森 光
伊藤 三重一
近 藤 勇
川本 政郎
西口 伸夫
大泉 源右工門
江藤 八郎
前田 周一
宮田 惣治
駒田 藤八

三重郡大矢知村大矢知
同 郡河原田村大字内堀
同 郡羽津村大字五區
同 郡八郷村大字山村
同 郡小山田村大字小山
同 郡富田町大字茂福
同 郡四郷村大字八王子新田
同 郡大矢知村大矢知
同 郡八郷村大字廣永
同 郡富田町大字茂福
同 郡小山田村大字内山
同 郡菰野町菰野川原町
鈴鹿郡神邊村山下
三重郡四郷村大字東日野
同 郡日永村大字泊
同 郡羽津村
鈴鹿郡神邊村大字山下
桑名市大字上野輪
鈴鹿郡牧田村

伊藤 正
野崎 茂助
伊藤 一藏
稻垣 源一
竹内 多一
伊藤 又一
水野 利雄
廣瀬 源一
水谷 朝藏
金森 茂造
矢田 榮助
南川 敏明
西川 定一
伊藤 伊之助
加藤 英太
森 傳一
西川 喜八郎
松尾 柳一
平尾 文雄

宇治山田市會場之部

五圓貯蓄債券授與者 (五名)

三重郡鶴川原村吉澤
 同 郡羽津村大字別名
 同 郡河原田村農會
 同 郡菰野町大字神森
 同 郡日永村大字日永
 同 郡 同 村
 同 郡朝日村大字埋繩
 同 郡朝日村大字小向

坂倉 賢一
 森 甚七
 岡田 幹知
 平野 甚一
 加藤 由太郎
 服部 太十郎
 稻垣 正巳
 飯田 哲三

度會郡濱郷村大字神田久志本
 同 郡小俣町大字明野
 多氣郡上御糸村大字佐田
 同 郡佐奈村大字前村
 志摩郡和具町
 飯南郡漕代村大字目田
 度會郡宮本村大字大倉
 飯南郡漕代村大字法田
 多氣郡齋宮村大字竹川
 志摩郡坂手村
 同 郡加茂村
 志摩郡加茂村大字岩倉
 多氣郡上御糸村大字前野
 津市中河原
 飯南郡大石村大字小片野
 多氣郡齋宮村大字齋宮
 志摩郡和具町
 度會郡宮本村大字大倉
 飯南郡射和村大字庄

大西儀四郎
 橋爪 嘉之
 西垣 爲吉
 久保田 久郎
 西世古 らめ
 田所 亥三
 岩出 稻雄
 鈴木 瀧藏
 清水 光雄
 小林 承乘
 中田 茂實
 上村 貞次
 森井 萬次郎
 大久保 善治
 瀬戸 喜一
 山路 正治
 堀口 喜十郎
 西本 利藏
 森田 喜一

商品代金壹圓授與者 (五十名)

飯南郡漕代村大字高木
 同 郡櫛田村大字安樂
 志摩郡和具町
 飯南郡花岡町大字驛部田
 度會郡御南村大字高向
 多氣郡上御糸村大字佐田
 飯南郡機殿村大字川島
 多氣郡大淀町大字山大淀
 志摩郡和具町
 多氣郡相可町
 度會郡下外城田村
 飯南郡櫛田村大字山下
 同 郡射和村大字射和
 多氣郡齋宮村大字上村
 飯南郡西黒部村松名瀬
 同 郡漕代村大字横地
 同 郡 同 村大字目田
 志摩郡和具町
 多氣郡大淀町大字山大淀
 飯南郡西黒部村大字西黒部
 同 郡漕代村大字稻木
 多氣郡上御糸村大字前野
 飯南郡大石村大字大石
 多氣郡上御糸村大字佐田
 志摩郡和具町
 同 郡 同 町

濱口 秋太郎
 城山 きよの
 稲葉 操
 中山 齊三郎
 横井 八重藏
 高橋 雄次郎
 北岡 市三
 松本 三郎
 中西 光夫
 阪井 喜之助
 田畑 まつ
 南山 久平
 西山 健次
 岩崎 益藏
 長井 國次郎
 門前 文作
 山下 一雄
 福田 はつの
 矢田 いせ

飯南郡西黒部村西黒部
 同 郡漕代村早馬瀬
 同 郡花岡町大黒田
 同 郡射和村大字八太
 同 郡花岡町大黒田
 同 郡櫛田村豊原
 志摩郡和具町
 飯南郡漕代村伊勢場
 同 郡港村新松ヶ島
 同 郡射和村下蛸路

小林 修三
 西村 實
 中頭 英太郎
 茨木 茂臣
 田中 才之助
 岡部 菊藏
 大山 はる
 松本 八三
 北川 末次郎
 奥出 佐一郎

405
401

昭和十五年九月廿五日印刷
昭和十五年九月三十日發行

發行所

三重縣津市下部田千九百拾七番地
三重縣津市下部田 三重縣農會內

編輯者兼

大橋 克

印刷人

三重縣津市丸之内本町二〇六ノ六
弘陽印刷株式會社取締役
駒田長之助

印刷所

三重縣津市丸之内本町二〇六ノ六
弘陽印刷株式會社

終